

夏目漱石顕彰 第17回 「草枕」 国際俳句大会

「草枕」の玉手箱 ―俳句と俳画入賞作品集― (平成24年)

俳句の部・一般部門

「草枕」大賞

月の客ひとりピアノ弾き始む 熊本県熊本市 南野 幸子

くまもと売れる米づくり推進本部賞

炎天や津波の跡に菓子おもちや 青森県むつ市 飯田 知克

福井市賞

フェリーいま銀河の橋に解纜す 熊本県熊本市 利光 秋郎

松山市賞

引き馬の腹に馬蛇唸りづめ 愛知県瀬戸市 玉井美智子

日本航空賞

水の星水の里なりみずすまし 東京都江東区 橋本世紀男

地下水都市・熊本賞

下駄の緒の切れてしまひぬ螢狩 神奈川県横須賀市 比留間加代

特選

今井千鶴子 選

食卓に芥子蓮根大暑かな 大阪府枚方市 中村 久子

岩岡 中正 選

掬ひとる水の中より新豆腐 熊本県熊本市 稲田 夏子

宇多喜代子 選

菜の花に溶けきつてゐるかくれんば 熊本県熊本市 伊津野善子

大岳水一路 選

水澄むや子規の生国にて余生 愛媛県松山市 谷 廣子

岸原 清行 選

かなかなに明けかなかなに暮る阿蘇 福岡県福岡市 赤坂 邦子

倉田 紘文 選

秋風を聞く観音の耳ふたつ 熊本県熊本市 加藤いろは

須藤 徹 選

花火果て闇を大きく闇つつむ 福岡県北九州市 大内 珠美

◆ 寺井 谷子 選

キャンピングカー焔の森に入る 熊本県西原村 平山 結子

◆ 坊城 俊樹 選

友水漬く太平洋を泳ぎけり 神奈川県鎌倉市 白井 晟也

◆ 山本 洋子 選

蚊取香とともにひと日が過ぎにけり 熊本県熊本市 恒松 繁政

俳句の部・ジュニア部門

「草枕」大賞

小学生の部

ポケットのせみがなき出すバスの中 愛媛県桑原小学校2年 泉市 竜志

中学生の部

ピストルの響きで動く夏大地

広島県坂本中学校3年 林 晃礼

高校生の部

北風や縮かんでいる更衣室

長崎県諫早農業高等学校2年 田尻 智啓

留学生の部

蒲の穂や朝食遺跡風渡る 石川県北陸大学3年 劉 冬瑤

日航財団賞

ブランコにのつたら足がそらにつく

熊本県金剛小学校敷川内分校2年 山内 美月

地下水都市・熊本賞

炎天下大きく上げた水しぶき

熊本県画園小学校5年 島村 敏季

俳句の部・外国語部門

「草枕」大賞 Kusamakura Taishou (Grand Prize)

over wire entanglements  
of the country border  
a butterfly

リュシアン ホリイ ホッタ  
Lucian Horii-Hotta  
(日本・東京都)

(訳)  
国境の  
針金の纏れを越えて飛ぶ  
蝶一つ

地下水都市・熊本賞 Chikasuitoshi Kumamoto Shou (Kumamoto 'City of artesian Waters' Haiku Award)

meditation  
the pond's blue eye  
captures an egret

アール R. キーナー  
Earl R. Keener  
(アメリカ)

(訳)  
瞑想の中  
池の水色の眼差しが  
白鷺を捕える

●● 特選 Tokusen (Second Prize)

◆ 西川 盛雄 選 Selected by Mr. Morio Nishikawa

tug of war fish versus man gulls cheer	レイ・K. ボース Raj K. Bose (アメリカ)	(訳) 魚と漁師の 大綱引き カモメたちが応援して	cosmic self-lit presence fireflies	マヌエル アソレイ Manuel Asorey (アルゼンチン)	(訳) 広大な宇宙で 自力で光るものがある 蛍だ
crossing centuries the aging bridge	ベル シェロン Belle Shalom (アメリカ)	(訳) 何百年もの時を渡り時を経た 橋を渡りゆく	solitary prime numbers I count under starry night	チカコ カジタニ Chikako Kajitani (日本・東京都)	(訳) 孤独な素数を 星空の下で 数えている私

◆ リチャード ギルバート 選 Selected by Dr. Richard Gilbert

skywriting all the disappearing words between us	マーガレット ドーナス Margaret Dornaus (アメリカ)	(訳) 二人の間で消え去る言葉を 一つ残らず大空に 描いている	new radio the noise of our origin	ディットマー タオフニャー Dietmar Tauchner (オーストリア)	(訳) ヒトの起源を伝える ノイズか 新しい無線交信
this heat the birth-giving petroglyph in desert varnish	ブルース ロス Bruce Ross (アメリカ)	(訳) この暑さ 砂漠のワニスで 命吹き込む太古の岩石線画	a summer of rain unwavering blades of grass bleed the roses green	カイリー ホックリン Kylie Hooklyn (オーストラリア)	(訳) 雨多き夏 草の葉がきつぱりと 薔薇の樹液を吸い上げて あおあおと

当日投句部門

- 「草枕」大賞
  - 鳴の声まねて子供を通りけり 熊本県熊本市 佐竹 茂彦
  - 中村汀女賞
    - 江津の川藻波たゆたう小春かな 熊本県熊本市 林田 秀久
    - 種田山頭火賞
      - 阿蘇の創癒す朝霧夜霧かな 熊本県菊陽町 渡邊佳代子
      - スポーツライフくまもと賞
        - 崩落の山より時雨来たりけり 熊本県熊本市 つのだともこ
        - 地下水都市・熊本賞
          - 黄落や熊本城の男ぶり 熊本県熊本市 中嶋 富忠
- 特選
  - 大岳水一路 選
    - 流れゆく雲を枕に山眠る 熊本県熊本市 久保 武雄
    - 小川濤美子 選
      - 正直に生きて踏まるる紅葉かな 熊本県熊本市 嶋田 光子
      - 岸原 清行 選
        - 一水の湧く静けさに紅葉散る 熊本県甲佐町 楠本美奈子
        - 寺井 谷子 選
          - 吾が息の風となりゆく瓢の笛 熊本県熊本市 宮崎 勸
          - あざ 蓉子 選
            - 木の実降るきつと誰かゞ上に居る 熊本県熊本市 西村 孝子
            - 井芹眞一郎 選
              - 神渡巫女の裳裾のひるがへり 熊本県菊池市 大久保昭子
              - 岩岡 中正 選
                - 咳一つしても気になる母の日日 熊本県熊本市 工藤 靖子
                - 近藤ひかる 選
                  - 強かな雨降つてゐる冬木立 熊本県荒尾市 城 松喜
                  - 星永 文夫 選
                    - 十七個詩のごと拾ふ円ら椎 熊本県熊本市 荒牧 成子

俳画部門

●● 「草枕」大賞



男の子生る、五月の風まぶし  
熊本県熊本市 中村 麗子

●● 地下水都市・熊本賞



地球より大筒を振りあげる  
(和泉雅江句)  
熊本県熊本市 上村 益穂

夏目漱石顕彰 第18回 「草枕」 国際俳句大会

「草枕」の玉手箱 ―俳句と俳画入賞作品集― (平成25年)

俳句の部・一般部門

「草枕」大賞

大空へひかりの渦や鷹柱

長野県長野市 渡辺 忠男

日本航空賞

削蹄す阿蘇の夕焼に背を向けて

福岡県芦屋町 廣橋いたる

くまもと売れる米づくり推進本部賞

生身魂かごめかごめの輪の中に

京都府城陽市 林 力朗

地下水都市・熊本賞

赤牛の骨盤の張り大夕焼

大分県中津市 吉武 千束

福井市賞

炎天を来て放牛に塩を置く

熊本県西原村 平山 楓子

松山市賞

夾竹桃国敗れたる日の匂ひ

熊本県熊本市 白石登美子

特選

今井千鶴子 選

川底を魚影が走る芭蕉林

熊本県熊本市 秋吉 柳水

岩岡 中正 選

大阿蘇の星の匂ひの髪洗ふ

熊本県南関町 平川みどり

宇多喜代子 選

水打つて地球の青の蘇る

熊本県美里町 田村 三溪

大岳水一路 選

水音のつながる村の落し水

宮崎県小林市 永田タエ子

岸原 清行 選

阿蘇五岳真つ正面に花芒

熊本県熊本市 丸山 一男

倉田 紘文 選

雨だれの石のくぼみや梅雨最中

東京都新宿区 倉林 知子

寺井 谷子 選

蛇を見た見た蛇に見られてるさう

熊本県大津町 坂本 セキ

坊城 俊樹 選

鳳仙花たつた一度の母の文

熊本県熊本市 建部 洋子

山本 洋子 選

腕時計外し神楽の神となる

熊本県美里町 田村 三溪

俳句の部・ジュニア部門

「草枕」大賞

小学生の部

せおよぎで空とプールがくつついた

山形県新庄小学校2年 東海林 虎

中学生の部

勉強しやる気のままに昼寝する

熊本県日奈久中学校1年 本村 花鈴

高校生の部

サイダーの泡がはじける反抗期

熊本県菊池高等学校1年 米村 文博

留学生の部

該当句なし

JAL財団賞

ゴール決めこぶし突き刺す夏の空

熊本県泉ヶ丘小学校6年 宮崎 友作

地下水都市・熊本賞

わき水の白いうずから秋の声

愛媛県愛媛大学教育学部附属小学校4年 富岡志恵菜

俳句の部・外国語部門

「草枕」大賞 Kusamakura Taishou (Grand Prize)

southbound birds the loop of identity

ディットマー タオフニャー  
Dietmar Tauchner  
(オーストリア)

(訳)  
南帰行の鳥アイデンティティの輪を  
天に描いて

地下水都市・熊本賞 Chikasuitoshi Kumamoto Shou (Kumamoto 'City of artesian Waters' Haiku Award)

shadows of leaves playing on the kitchen table where hands make tea

ミシャイル リンデンホーフェア  
Michael Lindenhofner  
(オーストリア)

(訳)  
木の葉の影が  
厨房の机上で戯れている  
そこはお茶をたてている処

●● 特選 Tokusen (Second Prize)

◆ 西川 盛雄 選 Selected by Mr. Morio Nishikawa

|  |  |  |                                    |                                    |                               |
|--|--|--|------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|
| today<br>soon leaves itself<br>behind                                | ジョン キャロル<br>John Carroll<br>(オーストラリア)                    | (訳)<br>今日という日は<br>今日という日を背後に遺して<br>やがて立ち去る | twilight--<br>one echo<br>light    | グレイ ホットハム<br>Gary Hotham<br>(アメリカ) | (訳)<br>朝焼けやー<br>光ひとつの<br>韻きかな |
| Young moon with<br>sharpness of sickle<br>ploughs<br>heaven's field. | ボレドドラグ ペラ<br>Predrag-Pera<br>シツカールツ<br>Cikaric<br>(セルビア) | (訳)<br>織月が<br>鋭い鎌で耕す<br>天上の畑野              | red canna<br>typhoon<br>off course | ゼンゾウ トダ<br>Zenzo Toda<br>(日本・熊本県)  | (訳)<br>台風が逸れて<br>カンナの<br>赤さかな |

◆ リチャード ギルバート 選 Selected by Dr. Richard Gilbert

|  |   |                                     |   |  |  |
|--|---|-------------------------------------|---|--|--|
| circadian rhythm<br>thoughts pulse into<br>dreams                        | ミッシェル L. ハーヴィー<br>Michele L. Harvey<br>(アメリカ) | (訳)<br>生命ある体内時計の思いが<br>夢の中へと脈動する    | fooled by the future<br>the rain falls<br>skin deep       | グレイ ホットハム<br>Gary Hotham<br>(アメリカ)     | (訳)<br>未来にあざむかれて<br>雨滴が浸み込む<br>皮膚深くまで  |
| When the night becomes<br>between the wet nets grow<br>pearls of silver. | エディツ マンチーニ<br>Edith Mancini<br>(アルゼンチン)       | (訳)<br>夜は水で濡れた<br>網目の中で<br>銀色の真珠が育つ | letting go<br>of my children in the balloon<br>letting go | ダロー リンズイー<br>Darrell Lindsey<br>(アメリカ) | (訳)<br>進みゆくままに<br>気球の中の我が子の<br>進みゆくままに |

当日投句部門

- 「草枕」大賞
- 牛の貌かたまつてくる霧の中 熊本県熊本市 二木 恵子
- 中村汀女賞
- 一枚の大襦なる冬の江津 熊本県熊本市 秋野 長利
- 種田山頭火賞
- 日表も日裏もなく柿たわわ 熊本県熊本市 矢田 節
- 地下水都市・熊本賞
- 嘴の水切つてゆく寒さかな 熊本県玉名市 浦 みつる
- スポーツライフくまもと賞
- 神の声めきて阿蘇野の虎落笛 熊本県南阿蘇村 藤本 淳子
- 特選
- 小川濤美子 選
- 幸せといふは今かも浮寝鳥 熊本県熊本市 利光 釈郎
- あざ 蓉子 選
- 春愁やはみだしている象の鼻 熊本県熊本市 北野 昭夫
- 井芹眞一郎 選
- 自らを励まし残るもみぢかな 熊本県熊本市 菱田 順子
- 岩岡 中正 選
- 音もなく堰越す水草紅葉かな 熊本県合志市 田中 郁子
- 大岳水一路 選
- 豪雨禍の疵そのままに眠る山 熊本県南阿蘇村 藤本 征男
- 岸原 清行 選
- 一斉に光りを放ち鴨発てる 熊本県合志市 岡本ゆう子
- 近藤ひかる 選
- 冬の川風やはらかに生まれけり 熊本県玉名市 山村 恵子
- 野中 亮介 選
- 火の山はどんと御座すや神の留守 熊本県熊本市 堀 伸子
- 星永 文夫 選
- 遊べとや詠めとや木の実落ちにけり 熊本県合志市 大坪 落子

俳画部門

●● 「草枕」大賞



黄落や熊本城の男ぶり

(中嶋富志句)

熊本県熊本市 三原 新一

●● 地下水都市・熊本賞



やはらかに金魚は網にさからひぬ

(汀女句)

熊本県菊陽町 河津 亜耶

夏目漱石顕彰 第19回 「草枕」 国際俳句大会

「草枕」の玉手箱 ―俳句と俳画入賞作品集― (平成26年)

俳句の部・一般部門

「草枕」大賞

八朔の海を大きく被ひけり

熊本県玉名市 本田加志子

日本航空賞

深眠る阿蘇に添寝の月の客

東京都小平市 中空 善彦

JAGグループ熊本賞

母許の夕べは長し花まんど

熊本県熊本市 安田真葉子

地下水都市・熊本賞

大阿蘇の大きく晴れて卒業す

岐阜県大垣市 村田 通夫

福井市賞

夏目家の障子に猫の出入口

三重県鈴鹿市 古川 和子

松山市賞

敗戦忌餓ゑの記憶の底に母

熊本県熊本市 中村あつこ

特選

今井千鶴子 選

お仏器に富士より高く今年米

熊本県水川町 秋山千代子

岩岡 中正 選

文豪の山椒魚に似たる貌

熊本県熊本市 島田真理子

宇多喜代子 選

日の出より日の入りまでの茄子の花

宮崎県川南町 下村 恵子

岸原 清行 選

山祇の月夜に泛きし朴の花

東京都練馬区 氏家 頼一

寺井 谷子 選

象の耳動き夏風生れけり

兵庫県川西市 西野 徳重

福本 弘明 選

五月晴きりと乾く天守閣

熊本県熊本市 大熊のぼる

坊城 俊樹 選

母の掌のぬくもりそこに朧かな

東京都日野市 菅原 悟

◆山本 洋子 選

水打つてしずかな夜を待ちにけり

北海道札幌市 小山 耕昭

俳句の部・ジュニア部門

「草枕」大賞

小学生の部

風のおとテーブルにおく夏料理

熊本県荒尾市立中央小学校3年 池末 愛果

中学生の部

シヤカシヤカと暑さもけずるかきごおり

熊本県熊本市立飽田中学校1年 山本 朱里

高校生の部

カルデラに太古の怒濤大西日

愛媛県愛媛県立松山東高等学校3年 栗田 歩

留学生の部

該当句なし

JAL財団賞

すいかわり夏の暑さもわりたいな

熊本県天草市立久玉小学校6年 後迫 瞭寧

地下水都市・熊本賞

青すだれつつてきれいな風をよぶ

愛媛県松山市立桑原小学校1年 荒木 智咲

俳句の部・外国語部門

「草枕」大賞 Kusamakura Taishou (Grand Prize)

the west burns down  
in the pipe of an old man  
quenching the century

Izeta Radetinac  
(セルビア)

(訳)  
西方が燃え落ちる  
老人の燻らすパイプの中  
この世紀の癒しに

地下水都市・熊本賞 Chikasuitoshi Kumamoto Shou (Kumamoto 'City of artesian Waters' Haiku Award)

rice seedlings  
on the cloud  
reflected in the paddy fields

Yukiko Yamada  
(愛知県)

(訳)  
水田の  
雲の上なる  
田植えかな

●● 特選 Tokusen (Second Prize)

|  |                                    |                                   |   |                           |                                      |
|--|------------------------------------|-----------------------------------|---|---------------------------|--------------------------------------|
| leaf by leaf<br>the wind tears<br>away autumn        | John Tiong Chung<br>Hoo<br>(マレーシア) | (訳)<br>一葉ごとに<br>風が秋を<br>引きはがす     | Foggy bridge<br>a tram<br>floats.                         | Daniel Gahnertz<br>(イタリア) | (訳)<br>霧深き橋<br>列車を<br>宙に浮かべて         |
| only the stars<br>seem so familiar<br>refugee camp   | Boris Nazansky<br>(クロアチア)          | (訳)<br>星だけが<br>難民キャンプに<br>寄り添って   | left behind<br>skimming stones<br>moonlit ripples         | Simon Hanson<br>(オーストラリア) | (訳)<br>波の上を滑っていく<br>投げ石の跡に遺る<br>月光の漣 |
| Wailing Wall<br>one child tells me<br>the truth      | Kisyova Maya<br>(ブルガリア)            | (訳)<br>嘆きの壁<br>一人の子が<br>教えてくれる真実  | dementia seasons candied<br>springtime attenuate memories | Jack Wood<br>(ニュージーランド)   | (訳)<br>甘いもの漬けの春果の季<br>節が記憶を弱らせる      |
| Shooting star<br>my childhood<br>where it used to be | Stoehen. A.<br>Peters<br>(アメリカ合衆国) | (訳)<br>流れ星<br>かつて私が子供だった頃の<br>その昔 | cat in the garden untangling<br>twilight                  | Annie Bachini<br>(イギリス)   | (訳)<br>庭の猫黄昏どきのけじめ<br>かな             |

当日投句部門

- 「草枕」大賞  
田に一礼天に一礼稲を刈る 熊本県熊本市 上村 孝子
- 中村汀女賞  
露けしや大地に下ろす集乳缶 熊本県熊本市 利光 秋郎
- 種田山頭火賞  
鴨の来て湖の唇のめくらるる 熊本県菊陽町 渡邊佳代子
- 地下水都市・熊本賞  
一斉に光の鴨となり翔ちぬ 熊本県合志市 坂田美代子
- スポーツライフくまもと賞  
沸き出づる言の葉欲しき漱石忌 熊本県熊本市 南野 幸子
- 特選  
◆ 小川濤美子 選  
暖かさ港へ母なる阿蘇眼下 東京都小平市 中空 善彦
- ◆ 井芹眞一郎 選  
障子貼る湖のほとりに五十年 熊本県熊本市 西 美愛子
- ◆ あざ 蓉子 選  
阿蘇五岳動かしてゐる秋桜 熊本県熊本市 勝木 睿子
- ◆ 岩岡 中正 選  
ゆくほどこに水湧き鴨はかがよへり 熊本県合志市 岡本ゆう子
- ◆ 岸原 清行 選  
鴨の来てひかりの湖となりけり 熊本県熊本市 菱田 順子
- ◆ 星永 文夫 選  
破れ芭蕉くぐりし風のくくと折れ 熊本県美里町 山田 節子
- ◆ 福本 弘明 選  
来し方やさんさんと散る金木犀 熊本県熊本市 桂 瑞枝

俳画部門



●● 「草枕」大賞  
牧小屋の  
草むらあたり萩の風  
熊本県熊本市 久保田美佐子



●● 地下水都市・熊本賞  
水打つて地球の青の蘇る  
(田村三溪句)  
奈良県奈良市 三島 直記

- 特選  
蒼き夜に浮かびし城の桜かな 千葉県千葉市 吉野 松美
- 平成二十五年 第一期くまもと俳句ポスト  
それからと言ひて漱石秋扇 千葉県旭市 神田 順二
- 平成二十五年 第二期くまもと俳句ポスト  
山粧ふ肥後の小さき木の葉駅 長崎県諫早市 麻生 勝行
- 平成二十六年 第四期くまもと俳句ポスト  
風鈴や漱石先生執筆中 茨城県笠間市 蒲生友紀子
- 平成二十六年 第五期くまもと俳句ポスト  
小楠に国是を問ふや蟬時雨 宮崎県都城市 西浦 征志

夏目漱石顕彰 第20回記念 「草枕」 国際俳句大会 国際俳句交流協会九州大会

「草枕」の玉手箱 ―俳句と俳画入賞作品集― (平成27年)

俳句の部・一般部門

「草枕」大賞

大阿蘇のふところ深く野火放つ 熊本県南阿蘇村 藤本 淳子

二十回記念特別賞 倫敦の出窓の家や漱石忌 埼玉県新座市 川崎 寧子

日本航空賞 蓮の花遠くに塔のそびえけり 福島県相馬市 菅澤 建二

JAGグループ熊本賞 大阿蘇をまほろばとして鷹渡る 熊本県熊本市 加藤いろは

地下水都市・熊本賞 帰省子に家膨らんでをりしかな 熊本県菊陽町 渡邊佳代子

福井市賞 漱石にもらひし秋思如何にせん 福岡県大牟田市 介弘 紀子

松山市賞 青柿のどすと落ちて阿蘇ゆるる 東京都日野市 菅原 悟

特選

有馬 朗人 選 シンデレラのハンカチ烏瓜の花 佐賀県上峰町 牟田タケ子

今井千鶴子 選 黄落やひらひらと手話のゆび 京都府福知山市 山内 利男

岩岡 中正 選 母眠る一間閉ざして秋蚕飼ふ 熊本県玉名市 中田恵美子

宇多喜代子 選 夕顔の窓や漱石ふさぎこむ 宮城県仙台市 齋藤 伸光

大久保白村 選 有明の海を遙かに野菊晴 熊本県熊本市 山本 五枝

大輪 靖宏 選 幼帝の入水海峡雁渡る 福岡県福岡市 久保山美登子

岸原 清行 選

天近き田の一枚の手植ゑさる 熊本県益城町 飯田 明美

寺井 谷子 選

虚子そこに立つてるるかに句碑涼し 熊本県菊池市 岩木 敬治

坊城 俊樹 選

捨案山子抱きおこして祝ひ酒 東京都杉並区 境 惇子

俳句の部・ジュニア部門

「草枕」大賞

小学生の部

ぬいだのにきているみたいみずぎあと 愛媛県松山市立清水小学校1年 榎津 志菜

中学生の部

せみの声本番せまるコンクール 熊本県宇土市立鶴城中学校3年 五十川美帆

高校生の部

扇風機寝に食はれし午後の夢 広島県広島県立広島高等学校1年 法正 祐真

JAL財団賞

放物線描くシートや大夕焼 広島県広島県立広島高等学校1年 尾美 樹生

地下水都市・熊本賞

かく汗は病みゆく地球のいやし水 東京都東京中華学校小学部6年 岩崎 繪央

俳句の部・外国語部門

「草枕」大賞 Kusamakura Taishou (Grand Prize)

after tsunami  
a surplus  
of emptiness

Dorota Pyra  
(ポーランド)

(訳) 津波去って  
ひろがる虚無の  
余情かな

20回記念特別賞 Special Prize for the 20th Memorial Competition

lightning -  
the saints come to life  
in the stained-glass

Virginia Popescu  
(ルーマニア)

(訳) 稲妻が走って―  
聖人たちが生き生きと  
スタンドグラスに甦る

地下水都市・熊本賞 Chikasuitoshi Kumamoto Shou (Kumamoto 'City of artesian Waters' Haiku Award)

ghost forest  
under the water  
man-made lake

Teiichi Suzuki  
(大阪府 河内長野市)

(訳) 人工湖  
森のまほろば  
水底に

●● 特選 Tokusen (Second Prize)

|   |                                  |   |   |                              |   |
|---|----------------------------------|---|---|------------------------------|---|
| a cast pebble<br>drowns to the lake bottom<br>all the way to the clouds | Zeljko Spoljar<br>(クロアチア)        | (訳)<br>投げ込んだ小石<br>湖底に沈みゆく<br>雲居まで             | prairie -<br>a lone kite<br>carrying the sky          | Carl Seguiban<br>(カナダ)       | (訳)<br>大草原—<br>空を背負って<br>風一つ                |
| A train whistle --<br>foggy canyon<br>at dawn                           | Masato Eguchi<br>(東京都 中央区)       | (訳)<br>列車の汽笛—<br>霧深き溪谷の<br>夜明け                | sunrise<br>a snail races<br>to stay in shadow         | Jay Friedenberg<br>(アメリカ合衆国) | (訳)<br>日が昇り<br>カタツムリが<br>競って影の中へ入る          |
| water flowers<br>go with the flow<br>as they stay                       | Nakamura<br>Chisako<br>(兵庫県 神戸市) | (訳)<br>水上の花<br>留っているのに動いて行く<br>水の流れとともに       | ayatori<br>the light of childhood<br>in granny's eyes | Alexey Andreev<br>(ロシア)      | (訳)<br>綾取りは<br>お婆ちゃんの目の中の<br>幼き頃の灯りです       |
| solar eclipse...<br>across a dandelion<br>an ant                        | Dajan Pavlinovic<br>(クロアチア)      | (訳)<br>日蝕に—<br>タンポポを横切っていく<br>蟻一つ             | 清明焚紙錢<br>煙燻陣陣紅眼眶<br>香灰垂涙光                             | 頼 衍宏<br>(台湾)                 | (訳)<br>清明に紙錢を燃やす<br>いぶされし目縁は赤く<br>香灰にも涙をそそぐ |
| 山路瀟瀟雨<br>人世不易何処居<br>且往小天去   | 王 云姣<br>(中国)                     | (訳)<br>山路は冷たき雨の中<br>とかく浮世は何処もかたし<br>されば往かむ小天地 |   |                              |   |

当日投句部門

- 「草枕」大賞
  - 漱石のこゑあるごとく返り花 熊本県熊本市 加藤いろは
  - 中村汀女賞
  - 大いなる水を抱へて阿蘇山眠る 熊本県熊本市 中宮 順子
  - 二十回記念特別賞
  - 漱石の吹かれし山の吾亦紅 熊本県熊本市 矢澤 幸乃
  - 種田山頭火賞
  - 苦も樂も十七文字にして小春 熊本県南阿蘇村 藤本 淳子
  - 地下水都市・熊本賞
  - 筆太の「則天去私」や冬の鴉 福岡県岡垣町 岸原 邦代
  - スポーツライフくまもと賞
  - ひとすぢの道秋草の中にあり 熊本県合志市 坂田美代子
- 特選
  - あざ 蓉子 選
  - 夏の日に幻見んと那古井邸 熊本県熊本市 植松 浩二
  - 井芹眞一郎 選
  - 温泉の里の山ごと熟るるみかん畑 熊本県熊本市 矢澤 幸乃
  - 岩岡 中正 選
  - 漱石に一目会ひたし冬菫 熊本県熊本市 中宮 順子
  - 大輪 靖宏 選
  - 古利今大黃落の直中に 熊本県南阿蘇村 藤本 淳子
  - 小川濤美子 選
  - テロ遠く阿蘇の山々眠りをり 福岡県岡垣町 川里 正子
  - 加藤 耕子 選
  - 黄落や那美さんの湯屋がらんだう 熊本県熊本市 高橋 満子
  - 岸原 清行 選
  - 赤牛のぬつと顔出す芒原 熊本県熊本市 池田 道子
  - 福本 弘明 選
  - 刈田はやバーゲンセール幟立つ 熊本県熊本市 佐本あい子
  - 星永 文夫 選
  - 焼芋や則天去私など云ふ勿れ 福岡県大牟田市 介弘 紀子

俳画部門

●● 「草枕」大賞



名月や十三円の家に住む(漱石句)

●● 地下水都市・熊本賞



春水の奥玉巻ける芭蕉かな(汀女句)

●● 特選

平成二十七年 度 くまもと俳句ポスト

- 湖籠汀女の気配ありにけり 熊本県熊本市 山崎 綾子
- 激動に生きし小楠草の露 熊本県熊本市 児玉 胡餅

夏目漱石顕彰 第21回 「草枕」 国際俳句大会 夏目漱石記念年にあたり、熊本地震からの復興を祈って開催

「草枕」の玉手箱 ―俳句と俳画入賞作品集― (平成28年)

俳句の部・一般部門

俳句の部・ジュニア部門

「草枕」大賞

鯨くる海を真下に袋掛 愛知県名古屋市長 大矢 節子

日本航空賞

かげろふの中を歩いて水貫ふ 熊本県熊本市 寺崎久美子

JAGグループ熊本賞

倒れるか傾くかしてゐる紫苑 大分県大分市 田中三樹彦

地下水都市・熊本賞

アマゾンの椰子で編みたる夏帽子 ブラジル 新井 知里

福井市賞

阿蘇五岳黒々と伏す良夜かな 熊本県茶臼山町 田嶋 啓子

松山市賞

歳月は死者にもありて漱石忌 熊本県菊陽町 渡邊佳代子

特選

今井千鶴子 選

地震あとの阿蘇の一番草を刈る 熊本県熊本市 荒牧 成子

岩岡 中正 選

田を植ゑて避難所へゆく日暮かな 熊本県熊本市 佐藤 禎子

宇多喜代子 選

大阿蘇を正面に置く夏帽子 山口県周南市 吉浦百合子

大輪 靖宏 選

背に阿蘇の影迫りくる冬田打ち 愛知県名古屋市長 与玖法破来

坊城 俊樹 選

断層を枕にひとり昼寝かな 熊本県益城町 西 たかもり

「草枕」大賞

小学生の部

熊本城ながいながい夏休み 熊本県熊本市立尾ノ上小学校6年 大石 優空

中学生の部

声そろえ素振り百回夕立雲 愛知県幸田町立南部中学校1年 齋藤 璃奈

高校生の部

原爆忌平和の水を噛みて飲む 長崎県向陽高等学校2年 西村 星羅

留学生の部

熊本城のさくらまつりみなやさし 熊本県尚絅高等学校2年 ライラ ヤーンズ

JAL財団賞

透き通る風鈴の音風になる 熊本県熊本市立桜木中学校1年 菱田さくら

地下水都市・熊本賞

草とりのじいちゃんにお茶もつていく 熊本県長洲町立清里小学校2年 馬淵 双葉

俳句の部・外国語部門

「草枕」大賞 Kusamakura Taishou (Grand Prize)

tears of joy  
rain drops run up the window  
of home bound plane Rudychev Natalia (アメリカ)

(訳)  
喜びの涙  
ふるさと  
故郷に向かう飛行機の  
窓の雨滴が上に見える

地下水都市・熊本賞 Chikasuitoshi Kumamoto Shou (Kumamoto 'City of artesian Waters' Haiku Award)

rainy summer  
just the scarecrow's hat  
visible above the grass Lyudmila Hristova (ブルガリア)

(訳)  
夏の雨  
案山子の帽子が  
草地の上に見える

●● 特選 Tokusen (Second Prize)

|  |  |  |  |                                       |  |
|--|--|--|--|---------------------------------------|--|
| drought<br>the babbling brook<br>losing its voice                | Barnabas Ikeoluwa<br>Adeleke<br>(ナイジェリア)   | (訳)<br>早魘<br>川のさざ波<br>今はその音絶えて               | at gust of wind<br>quiet shadows of trees<br>quarrel                 | Predrag Pera<br>Čikarić<br>(セルビア)     | (訳)<br>一陣の強い風<br>樹々の影が音もなく<br>言い争っている                  |
| above the cemetery:<br>the Big Dipper<br>catches a falling star  | Valorie Broadhurst<br>Woerdehoff<br>(アメリカ) | (訳)<br>墓地の上:<br>ひしやく星が<br>流れ星を掬っている          | Someone once loved--<br>unnamed sepia photo<br>from before the quake | McMurray David<br>(鹿児島県 鹿児島市)         | (訳)<br>かつて愛していた人がいた—<br>名前も分からぬセピア色の写真<br>地震が来る前のことだった |
| The oceans now<br>One SOS message<br>In millions of bottles      | Viviane Leite<br>(ブラジル)                    | (訳)<br>海は今<br>捨てられた無数のボトルから<br>SOSが聞こえてくる    | all eyes<br>wide open<br>aquarium                                    | Quendryth Young<br>(オーストラリア)          | (訳)<br>誰もが皆<br>目を大きく見開いている<br>水族館                      |
| Visiting hours...<br>mum keeps looking for<br>her forget-me-nots | Keith A. Simmons<br>(フランス)                 | (訳)<br>家に来て...<br>その間ずっと母は自分の<br>「忽忘草」を探している | typhoon arriving...<br>the farmer's hat<br>upon his chest            | John Michael<br>G. Londres<br>(フィリピン) | (訳)<br>台風の到来だ...<br>農夫は急いで帽子を<br>胸に置く                  |

当日投句部門

●● 「草枕」大賞

- 地震あとの今も名城小鳥来る  
熊本県熊本市 永村 典子
- 中村汀女賞  
暁の江津は鴨より動き出す  
熊本県八代市 坂川 奈々子
- 種田山頭火賞  
百年の捻子巻き時計漱石忌  
熊本県熊本市 高峰 武
- 地下水都市・熊本賞  
掬ふたび力充ちゆく冬泉  
熊本県合志市 坂田美代子
- 熊本の銘菓賞  
冬耕や空には地震の罅もなく  
熊本県熊本市 谷 喜美子
- スポーツライフくまもと賞  
天高し天守復興まで生きん  
熊本県熊本市 内藤 悦子

●● 特選

- ◆ 小川 晴子 選  
飯住まひより出でて舞ふ里神楽  
熊本県熊本市 佐藤 禎子
- ◆ あざ 蓉子 選  
震災の大河をよそに山眠る  
熊本県熊本市 廣瀬 守世
- ◆ 井芹眞一郎 選  
螻螂の鋼のごとく枯れにけり  
熊本県熊本市 山澄 陽子
- ◆ 岩岡 中正 選  
短日の灯早き飯庁舎  
熊本県八代市 鞠子ミサヲ
- ◆ 岸原 清行 選  
崩落の天守閣より秋の声  
熊本県熊本市 利光 秋郎
- ◆ 寺井 谷子 選  
天高し我も復興城主なり  
熊本県熊本市 西村 孝子
- ◆ 福本 弘明 選  
仰ぐ城墨絵のごとく銀杏散る  
熊本県熊本市 伊藤 広子
- ◆ 星永 文夫 選  
地震に灯をしかと継ぎ足す花ハツ手  
熊本県玉名市 仲田 晃

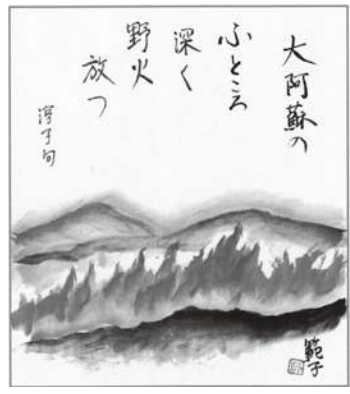
俳画部門

●● 「草枕」大賞



菜の花の隣もありて竹の垣 (漱石句)  
熊本県合志市 中原 邦子

●● 地下水都市・熊本賞



大阿蘇のふところ深く野火放つ (藤本淳子句)  
熊本県熊本市 村上 範子

●● 特選

- 平成二十八年年度 くまもと俳句ポスト  
初桜漱石居まで橋二つ  
福岡県北九州市 桜井 周子
- 漱石の一言一句竜の玉  
熊本県熊本市 加藤いろは

夏目漱石顕彰 第22回 「草枕」 国際俳句大会

「草枕」の玉手箱 ―俳句と俳画入賞作品集― (平成29年)

俳句の部・一般部門

● 「草枕」大賞  
カルデラの底より湧いて蟬しぐれ  
熊本県熊本市 西村 孝子

● 日本航空賞  
石の橋石が支へて爽やかに  
熊本県天草市 荒木 賢一

● JAGグループ熊本賞  
ボランティアア次々入る雲の峰  
福岡県福岡市 小出 達夫

● 地下水都市・熊本賞  
この世でもあの世でもなく阿蘇花野  
福岡県福岡市 今中 榮泉

● 福井市賞  
瀧壺を出て水の色とりもどす  
福岡県嘉麻市 高熊 絹恵

● 松山市賞  
光追ひ風追ひ靡く花野かな  
福岡県大牟田市 鹿子生憲二

● 特選  
岩岡 中正 選  
秋霖や崩落の山哭くごとし  
熊本県西原村 平山 楓子

● 宇多喜代子 選  
水澄みて魚一匹の世界かな  
大分県大分市 藤原 啓司

● 大輪 靖宏 選  
土握る皺の掌笑みて春田打  
東京都日野市 菅原 悟

● 西村 和子 選  
ほととぎす月影走る草千里  
宮城県仙台市 齋藤 仲光

● 坊城 俊樹 選  
焦げる程鳴いた熊本城の蟬  
福井県福井市 中野 慶子

俳句の部・ジュニア部門

● 「草枕」大賞  
小学生の部  
この海をおよいで大きくなる自分  
愛媛県松山市立石井東小学校4年 松田 優雅

● 中学生の部  
夕焼や光の絵の具キャンバスに  
熊本県菊陽町立武蔵ヶ丘中学校3年 山本凜々花

● 高校生の部  
喧騒を封じて夏は虚無になる  
熊本県熊本県立熊本高等学校2年 西浦 佐耶

● 留学生の部  
たんぼばや想いつなげて地の果てへ  
愛知県名古屋大学留学生 盧 金瑾

● JAL財団賞  
しやばん玉にじの国へと出発だ  
鹿児島県南九州市立大丸小学校3年 土岩 流音

● 地下水都市・熊本賞  
明日への夢詰めこんだ青葡萄  
東京都学習院女子中等科3年 村上 理穂

俳句の部・外国語部門

● 「草枕」大賞 Kusamakura Taishou (Grand Prize)

starving refugee  
a hand approaches her mouth  
with a microphone  
Indra Neil Mekala  
(インド)

(訳)  
餓えた難民の  
口元に差し出す手には  
マイクロフォン一本

● 地下水都市・熊本賞 Chikasuitoshi Kumamoto Shou (Kumamoto 'City of artesian Waters' Haiku Award)

refreshing water  
from a decrepit well...  
the old man's wisdom  
Kuznetsova Natalia  
(ロシア)

(訳)  
元気の出る新鮮な水が  
古びた泉から湧き出して...  
古老の智恵

●● 特選 Tokusen (Second Prize)

|   |                             |  |  |                                 |   |
|---|-----------------------------|--|--|---------------------------------|---|
| Trees in gowns<br>of autumn hues<br>tremble in the wind                 | Radcliffe Kit<br>(イギリス)     | (訳)<br>秋の色彩の<br>ガウンを纏った木々が<br>風に震えている      | just born<br>a mushroom lifts its cap<br>towards the sun | Vitasović<br>Dermano<br>(クロアチア) | (訳)<br>生まれたての木の子が<br>お天道様に向かって<br>冠帽子を挙げている                       |
| rubble<br>a child picks up a toy<br>collateral damage                   | Jocelyn Ajami<br>(アメリカ)     | (訳)<br>瓦礫の山<br>子供が玩具を拾い上げる<br>この子に何の罪もないのに | a silent veteran<br>sips a cup of sorrow -<br>in a shot  | Jovanka Božić<br>(セルビア)         | (訳)<br>黙して語らぬ退役軍人<br>悲しみの杯を一口啜る—<br>一発の銃声かして                      |
| dandelion seeds<br>on the wind<br>graduation day                        | Cristina Apetrei<br>(ルーマニア) | (訳)<br>タンポポの種が<br>風に乗って飛び散る<br>卒業式の日       | summer drought -<br>the only green<br>a raven's sheen    | Clayton Beach<br>(アメリカ)         | (訳)<br>夏の旱魃—<br>唯一の緑は<br>大鴉の羽の光沢                                  |
| picking mulberries -<br>your lips more blue<br>than the lizard's tongue | Gregory Piko<br>(オーストラリア)   | (訳)<br>マルベリーを摘んでいる—<br>君の唇は<br>トカゲの舌よりも青い  | 秋影夜窗臺<br>隔岸小樓又重開<br>似足故人來                                | 李 夢麟<br>(中国)                    | (訳)<br>秋の影が夜の窓台にさし、<br>対岸の矮屋はまた小窓が<br>開け放たれ、あたかも故<br>人が来ているかのようだ。 |

当日投句部門

●● 「草枕」大賞

陽も風も阿蘇の匂いの大花野 熊本県美里町 高田美千子

●● 中村汀女賞 熊本県合志市 坂田美代子

●● 大阿蘇の力をここに冬泉 熊本県美里町 坂田美代子

●● 種田山頭火賞 熊本県美里町 山田 節子

●● 柿たわわ子供百人欲しい村 熊本県美里町 山田 節子

●● 地下水都市・熊本賞 熊本県熊本市 伊藤 広子

●● 火の山を父とも仰ぎ冬耕す 熊本県熊本市 伊藤 広子

●● 熊本の銘菓賞 熊本県熊本市 伊藤 広子

●● 冬耕や思ひ出ばかり掘り起こす 熊本県南阿蘇村 藤本 淳子

●● スポーツライフくまもと賞 熊本県熊本市 利光 秋郎

●● パン種を寝かせて眠る漱石忌 熊本県熊本市 利光 秋郎

●● 特選 井芹眞一郎 選 熊本県熊本市 中西千鶴子

●● 桐落葉そつと手紙を置くやうに 熊本県熊本市 中西千鶴子

●● 岩岡 中正 選 熊本県天草市 荒木 賢一

●● 手話の手の胸に収まる原爆忌 熊本県天草市 荒木 賢一

●● 小川 晴子 選 熊本県南阿蘇村 藤本 征男

●● 伴天連の島を遠くに蜜柑切る 熊本県南阿蘇村 藤本 征男

●● 岸原 清行 選 熊本県熊本市 つのだともこ

●● 冬の城雁字搦めに足場組む 熊本県熊本市 つのだともこ

●● 寺井 谷子 選 熊本県熊本市 嶋田 光子

●● 空青し海なほ青し蜜柑山 熊本県熊本市 嶋田 光子

●● 福本 弘明 選 熊本県熊本市 嶋田 光子

●● 種採つて未来に迷ひなかりけり 熊本県熊本市 建部 洋子

●● 星永 文夫 選 熊本県熊本市 真弓ぼたん

●● よく消える消しゴムを買ふ文化の日 熊本県熊本市 真弓ぼたん

俳画部門

●● 「草枕」大賞



董程な小さき人に生れたし (漱石句) 熊本県熊本市 永田 裕子

●● 地下水都市・熊本賞



暁の江津は鴨より動き出す (坂川奈々子句) 熊本県熊本市 山城 依子

●● 特選

平成二十九年 第十一期くまもと俳句ポスト

肥後椿八雲の「時」を伝え継ぐ

北海道札幌市 水野 亜希

第23回 「草枕」国際俳句大会

「草枕」の玉手箱 ―俳句と俳画入賞作品集― (平成30年)

当日授句

「草枕」大賞

石一つ定めては積む城小春

熊本県熊本市 細田みのる

ジュニア大賞

夕焼けの赤は門限告げる色

熊本県熊本市立帯山小学校4年 生田 在

JAL財団賞

夕焼雲朝のねぐせはそのまんま

熊本県熊本市立帯山小6年 生田 臨

中村汀女賞

竜胆と吾れ大阿蘇の日を分かっ

熊本県熊本市 嶋田 光子

種田山頭火賞

黄落や戦無き世の城普請

熊本県熊本市 建部 洋子

地下水都市・熊本賞

水澄みて江津の辺に育つ子ら

熊本県熊本市 矢澤 幸乃

熊本の銘菓賞

肥後は無事十一月を迎へけり

熊本県熊本市 佐藤 武敬

熊本社会教育振興事業団賞

冬麗や寢まぶしく仰ぐ城

熊本県南阿蘇村 藤本 淳子

JAGグループ熊本賞

自分史の風の凹みに吾赤紅

熊本県美里町 山田 節子

日本航空賞

カルデラは底の底まで豊の秋

熊本県熊本市 佐藤 誠吾

福井市賞

古書店の匂ひに沈む漱石忌

熊本県熊本市 岩下 律子

松山市賞

被はるる大きな未来七五三

熊本県荒尾市 大川内みのる

特選

◆井芹眞一郎 選

翔び立てばもう海の色群千鳥

熊本県熊本市 永村 典子

◆岩岡 中正 選

菊愛しつづけて老いし男かな

熊本県合志市 坂田美代子

◆小川 晴子 選

そこにあるだけでしあわせ城小春

熊本県南阿蘇村 藤本 淳子

◆岸原 清行 選

黙禱の前に広がる稲穂かな

熊本県南関町 坂本首夏生

◆西村 和子 選

銀杏散る瓦礫となりし城石に

熊本県熊本市 南野 幸子

◆星永 文夫 選

行く秋を不知火海に流しけり

熊本県熊本市 高峰 武

俳画部門

「草枕」大賞



どつしりと尻を据えたる南瓜かな(漱石句)

熊本県熊本市 永田 裕子

外国語部門

●「草枕」大賞 Kusamakura Taishou (Grand Prize)

two lone trees  
intertwined branches  
holding hands

Jolin Chan  
(米国)

(訳)  
二本の孤立した木  
枝が縈り合されて  
手を繋ぎ合う

●地下水都市・熊本賞 Chikasuitoshi Kumamoto Shou (Kumamoto 'City of artesian Waters' Haiku Award)

July rain--  
ferrymen paddle canoes  
on the highway

ANTHONY ITOPA  
OBARO  
(ナイジェリア)

(訳)  
七月の大雨―  
渡し守が道路上を  
カヌーで漕ぎ進む

●特選 Tokusen (Second Prize)

Šuk Vladimir (クロアチア) Damir Janjalija (セルビア) Maria Tomczak (ポーランド) Alexis Rotella (米国) Ann Magyar (米国)  
Benjamin Blaesi (スイス) Julie Bloss Kelsey (米国) 紀翔恩 (台湾)

平成二十九年 第十二期くまもと俳句ポスト

特選

大地震の亀裂あらはな刈田かな

熊本県熊本市 野崎 一雄

平成三十年 第十三期くまもと俳句ポスト

特選

復活の鯨のかがやく立夏かな

熊本県熊本市 野崎 一雄

平成三十年 第十四期くまもと俳句ポスト

特選

陽は強しハーン先生昼寝の間

東京都品川区 阿久津桂子

俳句の国際化

(2025年11月18日付) 熊本毎日新聞「射程」

famine/empty pols spill/moonlight (飢餓/空の壺から溢れ出る/月の光)。15日に熊本市で開かれた第30回「草枕」国際俳句大会で、外国語部門の大賞を受賞したイギリスのファラー・アリの作品だ。紛争地域などで飢餓に苦しむ人々を思つて詠んだという。

大会は夏目漱石の来熊100年を記念して1996年に始まった。英国に留学経験のある漱石の足跡にふさわしく、当初から外国語部門を設けており、30回大会には67カ国・地域から1199句が寄せられた。実行委員会によると、外国語部門がある俳句大会では全国屈指の応募数という。30年の実績と、英語以外にスペイン語と中国語でも投句できる間口の広さが理由だろう。

俳句は20世紀初め、西洋でも知られるようになった。その頃、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)が作品の中で俳句を紹介している。ハーンが西洋との橋渡しの一翼を担い、漱石を顕彰する大会に海外から多くの投句があることを思うと、熊本は俳句の国際化に大きく貢献している。

現在は欧米各国や中国、韓国などに俳句協会があり、愛好家が句作に励んでいる。日本の国際俳句協会を中心に、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産登録を目指す取り組みも続いている。

日本の俳句が五・七・五の定型なのに対して、外国語俳句は3行程度の詩。スタイルは異なるが、自然や目の前の出来事をつぶさに観察し、それを短い言葉に凝縮して描写する表現方法が国境を超えて共感を呼び、多くの人の創作意欲をかき立てているのかもしれない。

2022年の大会では、ウクライナの男性がロシアとの戦争で破壊された家を詠み、大賞を受賞した。俳句は戦禍の情景と悲しみを共有し、平和を求める機運を世界に広める役割を果たせる。

(富田 一哉)

# 夏目漱石顕彰 第24回 「草枕」 国際俳句大会

「草枕」の玉手箱 ―俳句と俳画入賞作品集― (令和元年)

## 俳句の部・一般部門

### 「草枕」大賞

天球の傾くほどに水を張る

宮崎県小林市 永田タエ子

### 地下水都市・熊本賞

聖五月大地に触るる牛の乳

熊本県合志市 坂田美代子

### 日本航空賞

子を産みに帰る家郷や麦の秋

熊本県熊本市 伊藤 広子

### JAGグループ熊本賞

桜島かつぎ上げたる夏怒濤

熊本県熊本市 西村 孝子

### 福井市賞

灯台に骸のこして鳥渡る

熊本県合志市 佐澤 俊子

### 松山市賞

目薬一滴秋天に溺れけり

熊本県熊本市 坂田 淑子

### 特選

岩岡 中正 選

熊本県熊本市 頓田スミ子

万緑を母のごとくに恋ふ日かな

宇多喜代子 選

命まだ手にみずみずし青蛙

熊本県美里町 山田 節子

大輪 靖宏 選

風にのる海鳥春になりきつて

大分県宇佐市 松本 公節

西村 和子 選

噴煙の匂ふ一番草を刈る

熊本県熊本市 加藤いろは

### ◆坊城 俊樹 選

流燈を見送る波戸の行止まり

福岡県太宰府市 土井 一正

## 俳句の部・ジュニア部門

### 「草枕」大賞

#### 小学生の部

ほじよりんがやっとはずれたなつやすみ

熊本市立尾ノ上小学校一年 はつとり さわ

#### 中学生の部

秋の風一人に気づく砂時計

埼玉県川越市立福原中学校三年 奥富 裕貴

#### 高校生及び18歳以下の部

蝉時雨ぱつりと空いた優先席

熊本信愛女学院高等学校一年 平山 萌愛

### 地下水都市・熊本賞

八月に剥製になるぼくの犬

熊本市立出水南中学校一年 進藤 裕太

### (公財)JAL財団賞

ひまわりにまけないようにせのびする

熊本市立画図小学校一年 川路 明奈

## 俳句の部・外国語部門

### 「草枕」大賞 Kusamakura Taishou (Grand Prize)

war ...  
homes become  
houses

INDRA NEIL MEKALA  
(INDIA)

(訳)  
戦争は…  
ホームが消えて  
建物だけになる

### 地下水都市・熊本賞 Chikasuitoshi Kumamoto Shou (Kumamoto 'City of artesian Waters' Haiku Award)

Liba el colibrí.  
El olor de la lluvia  
acrecentándose

Lázaro Orihuela Martínez  
(Cuba)

(訳)  
蜜を飲む  
蜂鳥 雨の  
匂い濃し

●● 特選 Tokusen (Second Prize)

|  |  |   |  |                               |  |
|--|--|---|--|-------------------------------|--|
| green darter<br>stitching the sky<br>to the meadow                       | Jeff Hoagland<br>(USA)                     | (訳)<br>蜻蛉が縫針のように<br>空と緑の草原を<br>縫い結ぶ       | almost spring<br>I stir a magpie trill<br>into my tea            | Madhuri Pillai<br>(Australia) | (訳)<br>もうすぐ春<br>カササギの鳴き声を<br>ティーに混ぜ込ませます         |
| cradled in her hands<br>the dead bird<br>still beautiful                 | Seren Fargo<br>(United States)             | (訳)<br>揺り籠のような掌の中<br>死んでいても小鳥は<br>なお美しい亡骸 | sudden downpour<br>my blouse<br>becomes skin                     | Raquel D. Bailey<br>(Jamaica) | (訳)<br>突然の土砂降り<br>ブラウスが透けて<br>肌となる               |
| subway window<br>in the old lady's<br>reflection<br>a little girl waving | Radostina<br>Dragostinova<br>(Bulgaria)    | (訳)<br>地下鉄の窓に映る<br>老夫人の影の中で<br>手を振っている女の子 | empty battlefield<br>the soldiers still aligned<br>in the mounds | Dejan Pavlinovic<br>(Croatia) | (訳)<br>空漠とした戦場<br>兵士たちは今も<br>墳墓の盛り土となって<br>並んでいる |
| Espuma rosa<br>los lapachos en flor...<br>luz de octubre.                | Carmen del<br>Valle Picardo<br>(Argentina) | (訳)<br>紅の泡<br>十月の陽に<br>ラパチョ咲く             | 日盡晚風起<br>流螢和歌興致昂<br>笑語聲悠揚  | 林家 仔<br>(臺灣)                  | (訳)<br>日暮れの風に<br>螢がとんで歌声は高らか<br>笑い声も心地良い         |

当日投句部門

●● 「草枕」大賞  
遺されし者に賜る小春かな  
熊本県熊本市 永村 典子

●● 中村汀女賞  
幾筋の草のみちあり阿蘇の秋  
熊本県熊本市 和田 節子

●● 地下水都市・熊本賞  
赤あかと荒ぶ火の山初時雨  
熊本県宇土市 鎌田 順子

●● (一財)熊本市社会教育振興事業団賞  
蘇る銀杏城や鳥渡る  
熊本県熊本市 梅原 慶子

●● 種田山頭火賞  
はらからが在ればと思ふ衣被  
熊本県熊本市 吉田 潮

●● 熊本の銘菓賞  
小春日や声聴いて積む城の石  
熊本県荒尾市 大川内みのる

●● 特選

◆ 井芹眞一郎 選  
枯蟻螂塵より軽く掃かれけり  
熊本県宇土市 田代 幸子

◆ 岩岡 中正 選  
津軽から嫁を迎へて稲の秋  
熊本県熊本市 高峰 武

◆ 小川 晴子 選  
過去一つ消すごととセーター解いてゆく  
熊本県熊本市 西村 孝子

◆ 岸原 清行 選  
一枚の空一面の芒原  
熊本県南阿蘇村 藤本 征男

◆ 高橋 睦郎 選  
冬の空の晴々とあり草枕  
熊本県熊本市 橋本 智子

◆ 星永 文夫 選  
言葉持つ口を漱ぎて冬に入る  
熊本県熊本市 園田 つか

俳画部門

●● 「草枕」大賞



●● 地下水都市・熊本賞  
石一つ定めては積む城小春(細田みのる句)  
熊本県八代市 藤門 葉子



●● 特選  
令和元年 第十五期くまもと俳句ポスト  
避難所のむすびの記憶木下閣  
熊本県熊本市 野崎 一雄

夏目漱石顕彰 第25回 「草枕」 国際俳句大会

「草枕」の玉手箱 ―俳句入賞作品集― (令和2年)

俳句の部・一般部門

「草枕」大賞

風薫る漱石囲む中に祖父

千葉県柏市 岡田 春人

中村汀女賞

枷いくつ絆揺るがぬ肥後の秋

東京都世田谷区 山下 清実

地下水都市・熊本賞

黍嵐村に最後の帰還兵

福岡県北九州市 平村 久恵

日本航空賞

端居して過ぎしことより明日のこと

熊本県菊陽町 渡邊佳代子

(一財)熊本市社会教育振興事業団賞

野分けあと黒々と阿蘇立ちあがる

熊本県熊本市 北野 昭夫

J Aグループ熊本賞

夏潮を大きく絞る地曳網

熊本県荒尾市 大川内みのる

福井市賞

特攻機発ちし地に佇ち秋の声

宮崎県高鍋町 岡本 和子

松山市賞

涼新た星ひとつづつ語り出す

熊本県熊本市 境 真木子

(公財) J A I 財団賞

今も母在す夏草の真ん中に

熊本県合志市 坂田美代子

種田山頭火賞

風を読む二百十日の漁師の目

沖縄県中城村 前原 啓子

熊本の銘菓賞

秋出水人智及ばぬことばかり

東京都世田谷区 花土 公子

特選

◆井芹眞一郎 選

縹雲曳きて瀬戸行く渡船かな

福岡県北九州市 松本ゆきこ

◆岩岡 中正 選

門火焚く昔の猫もやつて来よ

東京都杉並区 阿川 暢子

◆宇多喜代子 選

秋澄むや同じ水飲む人けもの

長野県安曇野市 穂苺 真泉

◆小川 晴子 選

大楠の変はらぬ在り処鳥渡る

神奈川県横浜市 佐々木澄子

◆大輪 靖宏 選

ふる里はどの径ゆくも虫時雨

熊本県熊本市 下田 浩子

◆岸原 清行 選

大阿蘇のそのさきがけの野焼かな

熊本県熊本市 有働 利信

◆高野ムツオ 選

大出水それでもここで生き抜かな

熊本県南阿蘇村 藤本 淳子

◆寺井 谷子 選

帰省子にをとこの背筋城仰ぐ

熊本県熊本市 利光 秋郎

◆西村 和子 選

大阿蘇の風切り裂いて夏燕

熊本県南阿蘇村 藤本 征男

◆坊城 俊樹 選

雲の峰飽さるほど見てごろ寝する

熊本県天草市 金子 絹代

◆星永 文夫 選

百合包む戦後を語る新聞紙

熊本県美里町 畑田 孝子

● 「草枕」大賞 Kusamakura Taishou (Grand Prize)

radish harvest-  
a child's tug of war  
with the earth

Saumya Bansal  
(India)

(訳)  
大根の収穫—  
子供が地球と  
綱引きをする

● 地下水都市・熊本賞 Chikasuitoshi Kumamoto Shou (Kumamoto 'City of artesian Waters' Haiku Award)

Calle vacía.  
Sobre el banco resaltan  
flores silvestres

Francisco Javier  
Pastor Gómez  
(España)

(訳)  
無人の街  
ベンチにすくと  
草の花

● 特選 Tokusen (Second Prize)

A mulberry leaf-  
the very silk cocoon  
absorbs the moonlight

Branislav  
Brzakovic  
(Serbia)

(訳)  
桑の実の葉—  
絹を生む繭が  
たっぷり月光を吸い取って

winter twilight  
a shooting star ignites  
the sun

Earl Keener  
(United States)

(訳)  
冬の日の夜明け  
流星が太陽に  
点火する

older now  
the moon too  
hides half her face

Julie Warther  
Schwerin  
(United States)

(訳)  
年古りて  
月もまた同じ  
顔半分を隠す

pandemic  
I'm learning to smile  
with my eyes

Robert Kania  
(Poland)

(訳)  
パンデミック  
私は目で微笑みを  
伝えられるようになる

in the cage  
birds watch  
Us behind bars

Amy Wells  
(United Kingdom)

(訳)  
籠の中の鳥は  
むしろ囚われの  
我ら人間の方をじっと見る

Nada el sapo  
entre las estrellas  
el río crece

Miguel Alberto  
D'Amato  
(Argentina)

(訳)  
蟾蜍泳ぐ  
星星の間を  
川出水

屋内博奔歡  
爆竹炸破舊歲寒  
但盼來年安

周承潔  
(台灣)

(訳)  
屋内は賭け事に夢中 / 外では  
爆竹が去る年を送り / 来年は  
いい年になりますように  
(俳句訳) 大晦日はぜる爆竹  
笑う声

● 特選

城垣は復興半ば梅雨に入る

熊本県熊本市 山崎 綾子

令和二年 第十七期くまもと俳句ポスト

● 特選

夏草や南州無念の田原坂

熊本県熊本市 柳田 孝裕

令和元年 第十六期くまもと俳句ポスト

# 夏目漱石顕彰 第26回 「草枕」 国際俳句大会

「草枕」の玉手箱 ―俳句入賞作品集― (令和3年)

## 俳句の部・一般部門

### 「草枕」大賞

一滴の露のごとくに主峰あり 熊本県合志市 坂田美代子

### 中村汀女賞

水の輪の数ほど秋の生まれけり 大分県別府市 押谷 隆

### 地下水都市・熊本賞

汀より天へ百段花蜜柑 熊本県熊本市 有働 利信

### 日本航空賞

草千里飛雪千里となりにけり 大阪府大阪市 千坂 希妙

### (一財)熊本文化スポーツ財団賞

振袖も縫ひし夜なべの鯨尺 熊本県熊本市 伊藤 広子

### JAGグループ熊本賞

花の雲風の死角のなき天守 大分県別府市 古賀 宣道

### 種田山頭火賞

火の国の水の旨さや阿蘇芒 熊本県熊本市 徳永 文代

### 熊本銘菓賞

日傘一つ降ろしてバスの去りゆけり 熊本県玉名市 高木ミツヨ

### 福井市賞

声までも泥まみれなる蓮根掘 岡山県津山市 岡田 邦男

### 松山市賞

病葉に阿蘇伏流の匂ひあり 熊本県玉名市 山村 恵子

### 特選

井芹眞一郎 選

生き別れ死に別れして端居かな 福岡県福岡市 沖永 洋美

岩岡 中正 選

鰯雲村に一つの拡声器 熊本県熊本市 廣瀬 守世

宇多喜代子 選

みんな居た呑んだ唄った花の下 熊本県菊陽町 渡邊佳代子

## 中学生の部

コロナ禍の父は帰らず海に月

神奈川県横須賀学院中学校三年 ギャンビル・ウイリアム海音

### 高校生及び18歳以下の部

軒先は蟬時雨なり猫の夢

熊本県真和中学・高等学校二年 小山 晃生

### 地下水都市・熊本賞

陽炎と一緒に帰る登り坂

熊本県合志市立西合志南中学校三年 岩本 佳純

### (公財)JAL財団賞

首里城が焼けたあたりに夕焼雲

沖縄県那覇市立城東小学校四年 上地ひより

### 特選

西口裕美子 選

サッカーのゴール五かい目つゆのひる

富山県高岡市立伏木小学校二年 塩谷 航大

光永 忠夫 選

なつやさいやっぱりカレーが一ばんだ

熊本県熊本市立長嶺小学校二年 椿原 昊

山口 孝徳 選

真夏の夜呑み込んでゆくきみの嘘

神奈川県横須賀学院中学校三年 高橋 亜実

山下しげ人 選

風光り雲の生まれる阿蘇路かな

熊本県熊本市立帯山中学校一年 今村 薫子

米村 恒憲 選

君の声聞こえなくなる夏休み

熊本県熊本市立北部中学校三年 小山 颯太

## 俳句の部・インターネット投句部門

### 「草枕」大賞

逃水の上の市電の先に城 福岡県大牟田市 道脇長二郎

### 特選

晩秋やパズルのごとき城の石 熊本県南阿蘇村 中島 敬吾

銃眼は永久に使はず花の城 三重県鈴鹿市 古川 和子

ふるさとの城を見上げて卒業す 広島県広島市 前田 節

覗きこむ城の深井や天高し 熊本県熊本市 大即 和枝

## 俳句の部・ジュニア部門

### 「草枕」大賞

### 小学生の部

あさがおのめがごこぜんぶちようちよです

富山県高岡市立伏木小学校一年 沙 綾音

外国語部門

● 「草枕」大賞 Kusamakura Taishou (Grand Prize)

por el canalón  
los pasitos de un pájaro...  
sol de estío

Mercedes Pérez Pérez  
(España)

(訳)  
樋を行く  
鳥の足音  
夏日射す

● 地下水都市・熊本賞 Chikasuitoshi Kumamoto Shou (Kumamoto 'City of artesian Waters' Haiku Award)

tsunami  
lifts stops falls  
thunder of water

Jolanta Kajzer  
(Poland)

(訳)  
津波  
盛上がり 留まり 崩落して  
海の轟

● 特選 Tokusen (Second Prize)

|   |                             |                                     |   |                                    |  |
|---|-----------------------------|-------------------------------------|---|------------------------------------|--|
| a tiger<br>turns into a sheep --<br>windblown cloud             | Lucky Triana<br>(Indonesia) | (訳)<br>虎が<br>羊に変貌する—<br>雲が風に吹かれて    | bountiful harvest<br>the scarecrow<br>nothing but bones               | Maria-Luisa<br>Stepanek<br>(Italy) | (訳)<br>豊年満作だ<br>案山子が<br>骨だけになって                              |
| dotting orchard apples<br>the morning dew<br>ripens             | Saumya Bansal<br>(India)    | (訳)<br>点々と果樹園の林檎<br>朝露に濡れて<br>熟れている | a fistful of soil<br>in the hollow of my hand<br>what is left of home | Jocelyn Ajami<br>(USA)             | (訳)<br>手のくぼみに<br>一握りの土くれ—<br>かつての我が家                         |
| masked face<br>keen eyes speak<br>volumes                       | A Sethuramiah<br>(India)    | (訳)<br>マスクの顔<br>鋭い眼差しは<br>万卷の書を語る   | pandemic numbers<br>someone's son<br>someone's daughter               | Christina Sng<br>(Singapore)       | (訳)<br>パンデミックの数字<br>誰かの息子<br>誰かの娘                            |
| las manos juntas,<br>un niño riega amapolas<br>con agua del río | Félix Arce Araiz<br>(USA)   | (訳)<br>手を合わせ<br>川水汲む子<br>ひなげしに      | 家中喝茶<br>大門上の櫻花名信片   | 鄧 紹佳<br>(Hong Kong,<br>China)      | (訳)<br>俳句訳：家茶して玄関ド<br>アに花の葉書<br>散文訳：家でお茶を飲み<br>／玄関扉に桜の<br>葉書 |

● 特選

春塵を浴びてさびしき肖像画

大分県大分市 小野 智輔

令和三年 第十九期くまもと俳句ポスト

● 特選

四時軒の失意を包む春日かな

熊本県熊本市 柳田 孝裕

令和二年 第十八期くまもと俳句ポスト

# 夏目漱石顕彰 第27回 「草枕」 国際俳句大会

「草枕」の玉手箱 ―入賞作品集― (令和4年)

## 一般部門

### 「草枕」大賞

牛飼の日焼重ねて草千里 京都府京丹波町 本谷眞治郎

### 中村汀女賞

大阿蘇の花野に溶けてゆく心 熊本県熊本市 児玉 胡餅

### 地下水都市・熊本賞

散りぎはの少し色濃き桜かな 熊本県熊本市 坂田 淑子

### 日本航空賞

分身の水棹も日焼川下り 熊本県荒尾市 大川内みのる

### (一財)熊本市文化スポーツ財団賞

ちよと子牛群れを離るる吾亦紅 熊本県熊本市 つのだともこ

### JAGグループ熊本賞

復興のお城嬉しき初詣 熊本県熊本市 堀 志朗

### 種田山頭火賞

帰省子と夜の天守に上りけり 熊本県熊本市 坂口美穂子

### 熊本の銘菓賞

荒ぶれる阿蘇静まれと蕎麦の花 熊本県南阿蘇村 藤本 征男

### 福井市賞

新涼や湯灌にほどく母の指 愛知県東浦町 伊藤 京子

### 松山市賞

きみを迎ふわれは今年も生身魂 福岡県芦屋町 桐山 甫

### 特選

#### ◆岩岡 中正 選

漱石のほほづゑ阿蘇の初あらし 千葉県市川市 執行 香

#### ◆小川 晴子 選

遠汽笛阿蘇へと消ゆる枯木屋 熊本県熊本市 角田 宏子

#### ◆高野ムツオ 選

傾ぎてはよへよへほと踊るかな 熊本県菊池市 日野 智子

#### ◆西村 和子 選

いかのぼり大阿蘇の風引つばれる 大分県大分市 松本みゆき

## インターネット投句部門

### 「草枕」大賞

亡き父の場所空けてる端居かな

神奈川県川崎市 下村 修

### 特選

田水張る不易の逆さ涅槃像

熊本県嘉島町 田中よしえ

黄落や闌り御門煌めかす

熊本県南阿蘇村 藤本 淳子

窓と言ふ窓開け放つ夏館

大分県国東市 木村 弘治

軽がると天守閣のせ楠若葉

熊本県熊本市 宗像 和子

## ジュニア部門

### 「草枕」大賞

#### 小学生の部

汗だくだダンスはまるでポップコーン

埼玉県開智小学校二年 新井 杏奈

## 中学生の部

ラケットも日傘に入れてバスを待つ

熊本県熊本大学教育学部附属中学校二年 今村 葵子

### 高校生及び18歳以下の部

陽炎に揺れる私の進む路

熊本県熊本県立第二高等学校三年 松本 莉沙

### (公財)JAL財団賞

手を広げもう飛び込んだ夏の空

広島県福山市立大門中学校一年 松枝 蒼葉

### 特選

#### ◆西口裕美子 選

ろくがつのしゅうじをならうこいとかく

富山県高岡市立伏木小学校一年 柴田 悠暉

#### ◆光永 忠夫 選

強い陽に蝉の営み「いとをかし」

熊本県専修大学玉名高等学校一年 黒田 総司

#### ◆山口 孝徳 選

団栗を集めて合唱コンクール

東京都江戸川区立南篠崎小学校三年 柳沢 悠斗

#### ◆山下しげ人 選

目が回りみんな笑顔のスイカわり

熊本県熊本市立城東小学校四年 竹尾 宗高

#### ◆米村 恒憲 選

太陽と重なるボールを追う夏よ

熊本県熊本市立出水中学校三年 井上 權李

外国語部門

●● 「草枕」大賞 Kusamakura Taishou (Grand Prize)

devastated house  
before last night  
it was a home

Levko Dovgan  
(Ukraine)

(訳)  
壊滅した家  
昨夜まで  
家庭だったのに

●● 地下水都市・熊本賞 Chikasuitoshi Kumamoto Shou (Kumamoto 'City of artesian Waters' Haiku Award)

Tregua de Pascua...  
los pequeños juegan con  
armas de juguete

Keith Simmonds  
(FRANCIA)

(訳)  
復活祭の休戦  
子らは遊ぶ  
玩具の武器で

●● 特選 Tokusen (Second Prize)

|  |  |   |  |                            |   |
|--|--|---|--|----------------------------|---|
| her first paper crane<br>a child's wish for<br>the war to end                | Alvin Cruz<br>(Philippines)            | (訳)<br>初めての折紙<br>女の子が戦の終焉を<br>願って鶴を折る     | new galaxy -<br>the light twinkling<br>in the baby's eyes      | Dan Salontai<br>(USA)      | (訳)<br>新しい銀河系 —<br>光が赤子の瞳の中で<br>きらきらと光る       |
| reflections...<br>the fisherman's<br>shadow pulls trout<br>out of the clouds | Lyudmila Hristova<br>(Bulgaria)        | (訳)<br>水面に映る影<br>漁師が雲間から<br>鱒を釣り上げているよ    | lockdown raised<br>at sunrise he releases<br>his prized canary | Michael Dudley<br>(Canada) | (訳)<br>ロックダウン解除<br>日の出とともに解放する<br>あっぱれだったカナリア |
| wash tub...<br>waiting until<br>my face settles<br>he again stirs and laughs | Chittaluri<br>Satyanarayana<br>(India) | (訳)<br>洗い桶...<br>顔が落ち着くまで待つて<br>また掻き混ぜて笑う | refugees<br>at the border crossing<br>rain falling on snow     | Mark Miller<br>(Australia) | (訳)<br>難民たち<br>国境検問所で<br>雪の上に降る雨              |
| Horno de leña.<br>El pan en la tahona<br>huele a pasado                      | Silvia Asensio<br>García<br>(España)   | (訳)<br>薪籠の<br>店のパンには<br>昔の香               | Ojos curiosos<br>emergen de la arena.<br>Ah!!! Cangrejito.     | Ana Verdía<br>(Argentina)  | (訳)<br>好奇の目<br>砂から現わる<br>小蟹なり                 |

●● 特選

もののふの夢三月の雨に散る

熊本県熊本市 中村 和徳

令和四年 第二十一期くまもと俳句ポスト

●● 特選

城裏の笹子の径となりけり

熊本県熊本市 山崎 綾子

令和三年 第二十期くまもと俳句ポスト

●● 「草枕」大賞

写真俳句部門



熊本県熊本市 木下 保之

村の子が待ちし一通春の朝

# 夏目漱石顕彰 第28回 「草枕」 国際俳句大会

「草枕」の玉手箱 ―入賞作品集― (令和5年)

## 事前投句一般部門

### 「草枕」大賞

手話の手のある時強く原爆忌 熊本県天草市 荒木 賢一

地下水都市・熊本賞

滴りの一音山気揺らぎけり 熊本県宇土市 中川 裕子

日本航空賞

城は父市電は母や春夕焼 東京都世田谷区 山下 清実

JAGグループ熊本賞

風薫る風格新たなる天守 福岡県福岡市 今中 榮泉

福井市賞

雲映す湖へぎぶぎぶ跣の子 熊本県熊本市 若松 節子

松山市賞

余生なき子規漱石や夕端居 熊本県熊本市 芥川 卓

### 特選

岩岡 中正 選

秋立つやバイクの並ぶ古戦場 熊本県宇城市 田中昭三八

小川 晴子 選

天守閣囲める青葉青葉かな 熊本県熊本市 工藤 靖子

岸本 尚毅 選

臍浸けて家族四人の水眼鏡 福岡県水巻町 青竹 町子

高野ムツオ 選

防人や藻屑の寄する青岬 神奈川県横浜市 千田 道晋

西村 和子 選

月光に濡れて艶増す阿蘇の牛 東京都葛飾区 大久保 昇

## インターネット投句部門

### 「草枕」大賞

飛び込みの橋に勇気の集まれり 神奈川県川崎市 下村 修

### 特選

湖につつぬけの空燕来る 広島県東広島市 古山 礼子

片隅の笑はぬ生徒夜学の灯 長野県安曇野市 穂苺 真泉

呼び捨てにされてる男子キャンプ村 熊本県八代市 貝田ひでを

だんだんと月上りつつ宙の宴 京都府京都市 屋敷 旺甫

## ジュニア部門

### 「草枕」大賞

#### 小学生の部

散ばつをしたような島春の海 熊本県熊本市立力合小学校四年 大友 一晃

#### 中学生の部

背泳の届かぬ空の青さかな 熊本県熊本市立東町中学校三年 有働 生望

#### 高校生及び18歳以下の部

緞帳がのたりのたりと秋の暮 和歌山県智辯学園和歌山高等学校一年 上松 篤史

(公財)JAL財団賞  
夏空へ手足伸ばして水に浮く

熊本県熊本市立京陵中学校二年 矢澤 佳乃

### 特選

西口裕美子 選

せみが鳴くかん字ノートはおわったよ 富山県高岡市立伏木小学校三年 引田 裕太

光永 忠夫 選

小鯉鶏やちよつと待ってよ今いくよ 埼玉県開智小学校三年 新井 杏奈

山口 孝徳 選

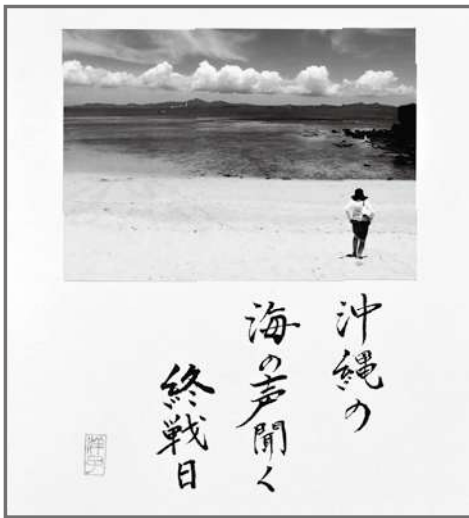
太陽をラムネの中に閉じこめる 東京都江戸川区立南篠崎小学校四年 柳沢 悠斗

山下しげ人 選

目を閉じて海の音鳴るラムネ瓶 熊本県熊本信愛女学院高等学校二年 増田 莉子

## 写真俳句部門

### 「草枕」大賞



熊本県合志市 田代 洋子

外国語部門

● 「草枕」大賞 Kusamakura Taishou (Grand Prize)

war zone

a soldier unhands

the firefly

Roberta Beary  
(Ireland)

(訳)  
戦場で  
手放す兵士の  
螢かな

● 地下水都市・熊本賞 Chikasuitoshi Kumamoto Shou (Kumamoto 'City of artesian Waters' Haiku Award)

Frío otoñal.  
Mariposas viajeras  
en procesión.

Aurea Leticia Reza  
Patiño  
(México)

(訳)  
秋冷や  
渡りの蝶は  
列をなし

● 特選 Tokusen (Second Prize)

|  |                                     |                                     |  |                                    |                                  |
|--|-------------------------------------|-------------------------------------|--|------------------------------------|----------------------------------|
| lunchtime...<br>a hawk flies over with<br>its landing gear down                | Ed Bremson<br>(USA)                 | (訳)<br>昼食時<br>ギア上げ鷹が<br>降下する        | bed of cosmos<br>butterfly and honeybee<br>exchanging flowers                | John Savoie<br>(USA)               | (訳)<br>秋桜の花壇<br>蝶と蜜蜂<br>花取り換えっこ  |
| incense stick<br>the weight of ash<br>before it falls                          | Ravi Kiran<br>(India)               | (訳)<br>お線香<br>落ちる灰なる<br>重さかな        | cave visit...<br>a child's torch releases,<br>hides, releases<br>stalagmites | Maya Daneva<br>(Netherlands)       | (訳)<br>洞穴探検<br>石筍が子の翳す灯で<br>見え隠れ |
| military graveyard<br>march of the crosses'<br>shadows<br>commanded by the sun | Alexandra<br>Ivoylova<br>(Bulgaria) | (訳)<br>軍人墓地<br>十字架の影たちの行進<br>指揮官は太陽 | invading<br>sunflower gardens<br>landmines                                   | Roberta Beach<br>Jacobson<br>(USA) | (訳)<br>侵攻は<br>向日葵の庭<br>地雷かな      |
| en su garganta<br>escofinas de cuchillas<br>cante jondo                        | Jocelyn Ajami<br>(USA)              | (訳)<br>喉奥に<br>ナイフのやすり<br>カンテ・ホンド    | 盲人書<br>書籤上の蝴蝶刺繍  | Vladimir Aktov<br>(Russia)         | (訳)<br>点字図書<br>葉に刺繍の<br>胡蝶かな     |

当日投句部門

● 「草枕」大賞

はればれと火の山日和大根引く 熊本県南関町 平川みどり

● 中村汀女賞

白日の城を一擲冬の雷 熊本県宇土市 鎌田 順子

● 地下水都市・熊本賞

城垣に張りついでる冬日かな 熊本県熊本市 山本 淑子

● (一財) 熊本市文化スポーツ財団賞

水清き里に嫁ぎて冬あたたか 熊本県熊本市 木村佐恵子

● 種田山頭火賞

火の国にのさる晩年秋夕焼 熊本県熊本市 宗像 和子

● 熊本の銘菓賞

しぐるるや埴輪に残る火の匂ひ 熊本県八代市 山下しげ人

● 特選

◆ 岩岡 中正 選

がたごとと乗客のせて秋は行く 熊本県熊本市 宗像 和子

◆ 小川 晴子 選

宇土櫓槌音冬をはね返す 熊本県菊池市 川口 隆子

◆ 高野ムツオ 選

戦争を見て来た月の光かな 熊本県南阿蘇村 藤本 淳子

令和四年 第二十二期くまもと俳句ポスト

● 特選

水鳥の楽園江津湖底透けて 福岡県宗像市 井上真知子

令和五年 第二十三期くまもと俳句ポスト

● 特選

奥阿蘇の水美しき若菜粥 大分県大分市 小野 智輔

# 夏目漱石顕彰 第29回 「草枕」 国際俳句大会

「草枕」の玉手箱 ―入賞作品集― (令和6年)

## 事前投句一般部門

### 「草枕」大賞

草の花まだ鼻輪なき牧の牛 熊本県合志市 坂上トヨ子

地下水都市・熊本賞

また一つ足場解かるる城小春 熊本県南関町 平川みどり

日本航空賞

初秋や音ともならぬ草の雨 熊本県熊本市 安田眞葉子

J Aグループ熊本賞

夕立来て馬の背光る草千里 奈良県奈良市 堀ノ内和夫

福井市賞

永き日を鐘の一打に納めけり 熊本県熊本市 田中 茗荷

松山市賞

星砂を育む島よ銀河濃し 熊本県菊池市 上野恵里子

### 特選

岩岡 中正 選

何も無きふる里なれど盆踊 熊本県熊本市 西村 孝子

小川 晴子 選

一太刀に始む城攻め稲光 熊本県熊本市 角田 宏子

岸本 尚毅 選

縁側へ出たき子規るて凌霄花 神奈川県平塚市 尾崎千代一

高野ムツオ 選

市電から始まる旅や一草忌 熊本県熊本市 槻木 俊彦

西村 和子 選

帰省子のお城を探す遠眼鏡 熊本県熊本市 轟 眞理子

## インターネット投句部門

### 「草枕」大賞

黙禱を宣する声や蝉時雨 東京都新宿区 矢島 章子

### 特選

新涼やささらさら走る硝子ペン 熊本県合志市 高村 聖恵

いもむしが好きでみんなに嫌はるる 熊本県八代市 貝田ひでを

峡谷の空押しし上ぐる鯉幟 広島県東広島市 古山 礼子

明珍の風鈴風を掻き鳴らす 千葉県芝山町 澤野 壽一

## ジュニア部門

### 「草枕」大賞

#### 小学生の部

ばあちゃんかわらうおぞうに三ばい目 富山県高岡市立伏木小学校二年 堀 菜月

#### 中学生の部

終わらない先生の話セミがなく 熊本県熊本信愛女学院中学校三年 齋藤 優

#### 高校生及び18歳以下の部

セロテープの始まりのなき暑さかな 東京都学習院女子高等科一年 島崎 結菜

#### (公財) JAL財団賞

電柱と遠くの空の入道雲 熊本県熊本大学教育学部附属中学校二年 鄧 雅文

### 特選

西口裕美子 選

ばあていがさいごのぺえじつゆのえほん 富山県高岡市立伏木小学校一年 舟本 匡吾

前山 光則 選

陽がねこの寝顔を照らす終戦日 大分県大分市立大在小学校六年 宮崎 胡翠

光永 忠夫 選

酔いしれてきょうも眠れぬ夜半の秋 広島県呉市立昭和北中学校二年 生見 昊佑

山口 孝徳 選

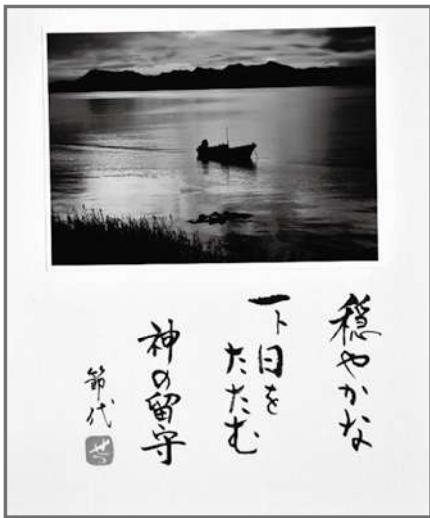
新聞で見かけし名字草の花 和歌山県智辯学園和歌山高等学校二年 竿本 啓晴

山下しげ人 選

既読無視され炎昼の中にいる 熊本県尚綱高等学校三年 北村 紗希

## 写真俳句部門

### 「草枕」大賞



熊本県熊本市 山戸 節代

外国語部門

● 「草枕」大賞 Kusamakura Taishou (Grand Prize)

escombros...  
en cada piedra  
cuentos de pena

Jocelyn Ajami  
(United States)

(訳)  
瓦礫の石  
一つ一つに  
悲しみの物語

● 地下水都市・熊本賞 Chikasuitoshi Kumamoto Shou (Kumamoto 'City of artesian Waters' Haiku Award)

a worried farmer  
next to dry fields-  
a month without rain

Gordana Kurtović  
(Croatia)

(訳)  
干上がった畑の傍らで  
傷心の農夫  
もう一月も雨が降らぬ

● 特選 Tokusen (Second Prize)

slanted rain  
stitching these ashen  
skies to the fields

Maire Morrissey  
(Ireland)

(訳)  
雨が灰色の空と  
畑を縫い繋げて  
斜めに降っている

a presence sensed  
by the silence it keeps  
memorial stone

dl mattila  
(United States)

(訳)  
墓石とは  
沈黙に守られてある  
面影

soundlessly...  
rain drops draw  
hieroglyphics

Lilia Racheva  
(Bulgaria)

(訳)  
音もなく...  
雨だれが太古の象形文字を  
描き出す

mountain railway station —  
the steam train leaves behind  
a fog dragon

Capotă Daniela  
Lăcrămioara  
(Romania)

(訳)  
登山列車の駅で—  
機関車が蒸気の龍を  
背後に吐き残してゆく

bloodshot  
a reflection of this world  
in a dragonfly's eyes

Arvinder kaur  
(India)

(訳)  
トンボの  
複眼に映る  
流血の世界の影

PASAN LAS NUBES,  
LENTAS COMO LA TARDE  
Y LOS BUEYES.

Ignacio Lombo  
Montañés  
(España)

(訳)  
雲がゆっくり過ぎる  
屋のように  
雄牛のように

sol de mediodía  
lagartijas deletrean  
letras de lápidas

Danny Blackwell  
(España)

(訳)  
日盛りに  
蜥蜴は石碑の  
文字を読む

短夜就長眠  
署名冥録列詩仙  
投宿酒泉邊

石倉 秀樹  
(日本)

(訳)  
短夜の長き眠りに  
閑庵帳にサインして詩仙に名を連ね  
酒泉のほとりに宿をとる  
(という夢を見た)  
(短夜や夢は詩仙酒泉に飛ぶ)

当日投句部門

● 「草枕」大賞

小鳥来る旧居の庭の投句箱

熊本県熊本市 伊藤 広子

● 中村汀女賞

大阿蘇の夕日案山子と背負けり

熊本県熊本市 池田いずみ

● 地下水都市・熊本賞

名月を担ぎ上げた天守かな

熊本県宇土市 鎌田 順子

● (一財)熊本文化スポーツ財団賞

産着千す指の先まで秋日和

熊本県熊本市 古賀久美子

● 種田山頭火賞

柿を剥く夕日くるくる廻しては

熊本県熊本市 木村佐恵子

● 熊本の銘菓賞

黄落の反射二の丸三の丸

熊本県宇城市 田中昭三八

● 特選

◆ 岩岡 中正 選

一村の静かに暮るる柿すだれ

熊本県宇土市 中川 裕子

◆ 小川 晴子 選

稲筈記紀に始まる阿蘇郡

熊本県熊本市 上村 孝子

◆ 西口裕美子 選

サイフォンのあぶく一気に神無月

宮崎県延岡市 森山 榮子

◆ 西村 和子 選

くまモンの迎へるロビー冬暖

岡山県岡山市 三川 幸子

令和五年 第二十四期くまもと俳句ポスト

● 特選

木石のかへす初冬の光かな

香川県九尾市 三好 康夫

令和六年 第二十五期くまもと俳句ポスト

● 特選

漱石もハーンも知らぬ炎暑かな

熊本県熊本市 柳田 孝裕

# 種田山頭火あれこれ

山頭火ブームを巻き起こし、一般人に最も人気のある俳人山頭火は、

明治十五（一八八二）年、山口県佐波郡西佐波令村（現防府市八王子）に生まれた。本名種田正一。父竹治郎は村有数の資産家であったが、大浪費家で、山頭火と共に始めた種田酒造場も大正五年ついに倒産。山頭火は妻子を連れて来熊、下通二丁目



に古書店「雅楽多」を開いた。しかし、店は妻任せで、句友と飲み歩いてきた。大正九年妻サキノと戸籍上離婚。一時東京一橋図書館に勤めたが、長つづきせず、関東大震災後に帰熊した。大正十三年十二月、酔って熊本市公会堂前で市電を停め、この時、千体仏報恩寺の望月義庵の世話になり、十四年二月に出家得度、名を耕畝と改めた。三月に鹿本郡植木町味取の瑞泉寺（味取観音）の堂守となったが、翌年四月、行乞放浪の旅に出た。山陰・山陽から四国を行乞。昭和四年、一時熊本に帰り、十一月、阿蘇で師萩原井泉水を迎えた。翌年九月から宮崎、大分、福岡を行乞、十二月に熊本市春竹琴平町に一室を借り、三八九居と名づけた。六年二月、個人誌「三八九」を創刊、十二月からまた旅に出た。昭和七年九月、山口県小郡に庵を結び、「其中庵」と名づけ、十三年山口市湯田温泉に「風来居」、翌年松山市御幸寺の境内の「二草庵」が終のすみかとなった。昭和十五年十月没。享年五十九歳。

松はみな枝垂れて南無観世音

山頭火は自選句集『草木塔』の巻頭にこの句を置き、「大正十四年二月、いよいよ出家得度して、肥後の片田舎なる味取観音堂守となったが、それはまことに山林独住の、しづかといへばしづかな、さびしいと思へばさびしい生活であった。」という詞書を付している。

前山光則氏は「これはほんとにスッキリ整った姿をしている句で、まるで作者の心の内が『無』に近いくらいになっていたから成立したのか、と思わせる。読む側もそれな

りに、そこに生じたろう宗教的な気配を受け止めることになる。」（『山頭火を読む』と解している。味取観音に独り住んだ山頭火が、いよいよ表現者として自立していく第一歩をこう記した時、世俗を捨ててもなお心に残るもの、俳句への精進という我執の強さが「南無観世音」ということばとともに強烈に響いてくる。声明すればするほど、いよいよ俳句に深く捉えられたと思えてくる。

分け入っても分け入っても青い山

大正十五年六月、熊本県馬見原から宮崎県高千穂に至る九州背梁山中で詠まれたもので、山頭火の代表句。井泉水は「一寸読むと、禅林句集にでもありさうな気持ちに思はれ」るが、「其と是は明らかに違ふ。禅林の語にあるやうな、人間の世界を卒業しきつて、青山白雲と同化したという風な、つまり悟りきつた気持では此句はないのである。」（『山頭火を語る』）と捉えている。九州背梁の「青い山」を分け入っていくという実景とともに、「分け入っても」のくり返しが、実にさまざまな意味を示唆することになる。山頭火は俳句の、あるいは人間の心の奥深さを、今さらながら噛み締めているように思われる。あるいは業の御しがたさか。

焼き捨て、日誌の灰のこれだけか

昭和五年九月九日、熊本を発つた山頭火は、八代、佐敷、人吉、宮崎、鹿児島、大分、福岡と三ヶ月に及ぶ旅をした。九月十四日に人吉で、「熊本を出発するとき、これまで日記や手記はすべて焼き捨ててしまったが、記憶に残った句を整理した」（『行乞記』）と記し、さらに「単に句を整理するばかりぢやない、私は今、私の過去一切を精算しなければならなくなつてゐるのである。たゞ捨て、も捨て、も捨てきれないものに涙が流れるのである。」（同）と書いている。掲句は十六日作。俳句一筋の精進だが、見方を変えれば俳句への執着の強さ故の行為ということになる。

うしろすがたのしづれてゆくか

詞書に「昭和六年、熊本に落ちつくべく努めたけれど、どうしても落ちつけなかった。またもや旅から旅へ旅し続けるばかりである。」（『草木塔』）と記し、「自嘲」の前書きがある。昭和六年十二月三十一日のことであったが、放浪俳人の「うしろすがた」に、日本人はおのれの姿を重ね合わせ耐えているところがある。

熊本大学文学部教授

首藤 基澄

# 中村汀女 — 俳人という生き方



## 花落とし終へし椿の男ぶり

汀女は昭和六十三年九月、八十八歳で亡くなったが、掲句はその数ヶ月前に詠まれたものである。「花」を汀女のこれまでの作品の数々、幾多の業績とみると、この句にはこれまでの生涯を振り返る汀女の心境が詠み込まれている。「男ぶり」と言っているところに汀女の生き様が象徴されている。

つつじ咲く母の暮しに加はりし  
みぞそばに沈む夕日に母を連れ

汀女は結婚して上京後、年に一度は必ず帰省した。汀女の帰省は「母の暮しに加はることだったのである。昭和十九年父親が亡くなってからは帰省の回数も増えていく。そういうこともあって江津湖畔の風物を詠んだ句も生涯を通じて多く見られる。

鳩霞に集りぬ湖暮るる

枯芭蕉草生ふれのあたたかく

水葱流る心はるる来し如く

晩年には東京にいても江津湖畔のことを思い出して詠んでいる。

中空にとまらんとする落花かな

水仙や東ねし花のそむきあひ

「ホトトギス」で育った汀女に「風鳥諷詠」の写生句が多いのは勿論であるが、その他注目したいのが心境句である。

夏雲の湧きてさだまる心あり

寒の水ふくみておのれ信すべく

対象物に自己の心情を投入させることで自己の内面を詠んだ句に佳句が多いのである。

平和願ふはすべての人なり

誰がために水澄み木の実の熟るる日ぞ

その他にもこのような反戦の句などもある。こうしてみると汀女の句の世界は「台所俳句」に収まるようなものではないことが判然とする。

行く道はいつも一筋水草生ふ

この句には「江津湖畔に私の句想はいつも馳せてゆく。」といった汀女の俳人としての生き方が詠まれている。

このように汀女が俳句の道「一筋」に生きることができたのは、汀女自身の生き方に依るところが大きいのである。官吏の妻として、三人の子供を育てながらの生活の中には「人並の苦勞もあつた」と言っている。しかし、「その都度に私は必要以上に思いわずらうことはしなかった」「心を変えろ一流れにまかせろすべを知っていた」のである。汀女は俳誌の「風花」を「今日の風、今日の花」と「今日に心新しくあれば、風も新た、花も新た」と「自戒の言葉」としていたのである。

俳句は男性の文学だとか断定の文学だと言われるが、十七文字の俳句はいかに切り捨ていくかにかかっている。こうしてみると、汀女の妻として母としてまた人間としての生き方そのものが俳句的であったと言えることができるのではないだろうか。

尚綱大学文学部教授 今村 潤子

「第七回『草枕』全国俳句大会報告書より」

明治三十三年に熊本県飽託郡画図村（現熊本市江津）に、斎藤平四郎、テイの一人娘として生まれた汀女が初めて俳句を作ったのは十八歳の時であった。二十歳で結婚し熊本を離れてから十年程は子育てや夫の転勤などで俳句から遠ざかるが、その後、虚子の指導のもと力をつけていった汀女は橋本多佳子、三橋鷹女、星野立子らと共に四Tの一人として女流俳人の位置を確立していったのである。

汀女の業績は生涯八千句近くの句を作ったということだけではない。昭和二十二年創刊した俳誌『風花』には家庭婦人が多く集った。昭和三十年代になると各地に支部も出来会員も千名を越える程になった。また、雑誌やラジオなどの添削指導によって俳句の裾野を広げ、俳句を国民的文芸の域に持つていった功績も注目すべきである。

そうした汀女は俳人として七十年間（十年程中断）の間に十一の句集を出しているが、それらを通してみてみると汀女俳句の世界、及び汀女の生き方が見えてくる。

咳の子のなぞなぞあそびきりもなや  
あはれ子の夜寒の床の引けば寄る

汀女といえは子供を詠んだ句や、母親の子供に寄せる情愛を詠んだ句が人口に膾炙している。しかし、こうした句は子育てが終ると少なくなっていくのである。

子にかかる思ひを捨てぬ更衣  
子にかかる嘆きあきらめ初紅葉

これらの句には汀女の子離れの思いが詠まれているのである。こうした子供の句の減少に伴って増えてくるのが母親を詠んだ句である。

## 漱石をめぐる

# 漱石俳句の軌跡——無心の句境へ

## はじめに——俳句は漱石の生涯の友

私は国文学や英文学の専門ではないが、漱石同様二〇代から俳句を始め、あつという間の半世紀である。私にとって俳句は生涯の友だが、漱石にとつてもそうだったに違いない。もちろん俳句には「文入俳句」というジャンルがあつて、文豪たちの「余技」や本業の仕事への「慰藉」とみなされたりもするが、漱石にとつて俳句と漢詩は、文人の余技ではない。

つまり漱石にとつて、英文学と小説と俳句・漢詩は三位一体であり、俳句と漢詩は生涯を貫き培う教養、語彙、機知、興趣、諧調（リズム）を提供し、漱石文学を支え続けたものなのであろう。新しい感動表現とそれを生み出す「ことばの力」の基礎に、俳句や漢詩があつて、漱石は生涯これらを手離すことはなかつたのである。

## (一) 俳人・漱石の誕生——子規の推挽と友情

俳人・漱石は、子規の俳句革新運動の産物ともいえる。二人の出会いが明治二十二年。「余は偏屈なり頑固なり、すぎな人はむやみにすぎにて、嫌ひな人はむやみにさらひなり」と自分で宣言する子規は漱石の学識と人柄に惚れこんで、俳句交遊へと進んだ。二十四年には漱石が子規門に入った「俳道発心」の書簡があり、それ以降、「駄句少々御目にかかけ候」、「こんなものばかりに候、然し病中の御慰に御覧可入候」と、漱石は謙虚でやさしい。これに應える子規の楽しい添削指導は有名だが、他方で子規は漱石を新しい俳壇改革への有力俳人として推挽する。

俳句革新の時代である。以前の宗匠俳句のように俳歴などは問題でない。「明治二八年始めて俳句を作」った漱石を子規は、「明治二九年の俳諧」（日本）で、「初めて俳句を作るときより既に意匠に於いて句法に於いて特色を示す」と言い、「明治三〇年の俳諧」（日本）では、「漱石の超俗にして時に奇警」、「俳人の錚錚たる者」と世に紹介し、「肥の漱石……、一騎当千の勇将なり」と宣言する。ここからは、今見ても不思議なほどの子規の革新運動の熱気が伝わってくる。同時に、俳人・漱石への子規の期待の大きさとそれに応える漱石の実力が見えるようである。

## (二) 漱石の前期俳句の豊饒

そこで明治二十八年の松山、とりわけ愚陀仏庵時代から高まり三十三年に留学する熊

本時代の終わりまでの前期俳句だが、これは多産で、内容的にも個性的で多様、自由自在、縦横無尽、才気にあふれる句ばかり。どれも、漱石の柔らかな感性とウィット、豊かな知識と教養、ことばの力に裏打ちされた句である。

以下いくつか紹介すると、子規に教えられた「写生」句でも、確かな観察を踏まえた情調や明るさのある句。あるいは、即興の率直で明快な句は、どれも楽しい。

乾鮭のからついてゐる柱かな

すずしきや裏は鉦打つ光琳寺

草山に馬放ちけり秋の空

秋はふみ吾に天下の志

春の雨鍋と釜とを運びけり

次は、自由でダイナミックで物語性や滑稽味あふれる、想像力豊かな句。

吉良殿のうたれぬ江戸は雪の中

行春や紅さめし衣の裏

三十六峰我も我も時雨けり

叩かれて昼の蚊を吐く木魚かな

また、漱石らしい内面への凝視、葛藤、厭世の思いや生き方に関わる内省句。漱石の個性とその後を暗示する俳句。

吾折々死ななと思ふ臍かな

仏性は白き桔梗にこそあらめ

木瓜咲くや漱石拙を守るべく

さらに最後に、右の内面凝視の句とも関わるが、漱石らしい「小さきもの」への注目がある。思想家・歴史家の亡き渡辺京二の若い療養所時代に死と直面したエッセーに「小さきものの死」がある。これが渡辺京二の文学の原点なのだが、自他のいのちであるこの「小さきもの」への深いまなざしはまた、漱石の生涯を貫くものでもあつて、初期俳句にも折々顔を出す。

淋しくば鳴子ならして聞かせうか

董ほどな小さき人に生まれたし

本名は頓とわからず草の花

ところで、こうした漱石の前期俳句はさらに子規との俳句交流（往復書簡）を通して見ると、まことに豊かで心あたたまるものがある。私が「友情俳句」とよぶ子規の側の句から、俳句世界の中の漱石の位置と風景が見えて楽しい。たとえば、次の子規の三句。

桔梗活けてしばらく飯の書齋かな

梅活けて君待つ庵の大三十日

漱石が来て虚子が来て大三十日

子規  
子規  
子規

これらの句は、漱石の日常の大事なる断片を伝えて、楽しい。一句目は、明治二十八年、松山の漱石の下宿・愚陀仏庵に病み上がりの子規が転がり込んできて、「桔梗活け

て」ここがわが「仮の書齋かな」とすましている子規と、これを受けいれている漱石の姿。私はこれを「奇跡の日々」とよんでいるが、それはここで漱石が俳句創作に打ち込みはじめたから。つまりこの頃から漱石が文学創作者（文豪）への道を歩みはじめた記念の日々だからである。

さらに右の二、三句目は、漱石が鏡子夫人との見合いのために松山から上京した折りの句。いそいそと梅の花など活けて漱石を待つ子規の姿が見えるが、何とこの日ここに子規、漱石、虚子という、のちの三文豪が再会した。子規・漱石と虚子は七つの違いで、両者の世代間の意識―日本の近代や文芸への立ち位置もかなり違う。俳句から小説への道を進み「近代」や「自我」をめぐる葛藤に正面から取り組んだ漱石。小説から転じ、俳句改革を通してわが国の文芸の近代化に取り組んだ近代人・子規。これも小説から俳句に転じ、子規の写生を受けついで俳壇を制覇しつつも近代化に抗して俳句の固有性と伝統にこだわった虚子。その後彼らは、日本の文芸と自我における「近代」をめぐる、三者三様の道をたどる。それにしてもこれは、何と豪華な邂逅の一日の風景だろうか。私たちは、この瞬間をとらえて後世に伝えた一句の力にもあらためて注目しなければならぬ。

### (三) 漱石の後期俳句―深く透明な境地

以上の子規との友情で開花した漱石の多産で豊饒な初期俳句に対して、明治四十三年の修善寺での臨死体験を頂点とする後期俳句は全く次元の異なるものだろう。この後期俳句の背景については、俳句雑誌でいわゆる「自句自解」ともいふべき、漱石自身によるすぐれた解説である「思い出す事など」にくわしい。

漱石は、「余は年来、俳句に疎くなりまさった者……漢詩に至っては、殆ど当初からの門外漢」と謙遜し近年俳句から遠ざかったと断りつつも、「けれども余が病中に作り得た俳句と漢詩の価値は、余自身からいうと、全くその出来不出来に関係しないのである」と言う。つまり漱石は、大病を経て自分の作品に対する他人の評価を気にしない、「その善悪などはむしろどうでも好いとまで思う」に至ったのである。

こうした生死を越えた自由の境地で詠まれた後期俳句の、観照と虚心、感謝と肯定の透明な句境は、知性と好奇心あふれる、まるで教養小説（自己）形成小説（ビルドアップ・スロマン）のような前期俳句とは全く異質の、深化した透明な世界であった。漱石は「病気になって仰向けに寝てからは、絶えず美しい雲と空が胸に描かれた」、「それ位、病中の余は自然を懐かしく思」い、「眼の前に群がる無数の赤蜻蛉を見て、日記に「人よりも空、音よりも黙。……肩に来て人懐かしや赤蜻蛉」と記したが、これは子規の早すぎる晩年の植物愛や自然愛にも通じる透明な境地。さらに「死」をめぐるのは、

冬蜂の死にどころなく歩きけり

死ねば野分生きてゐしかば争へり

勇気こそ地の塩なれや梅真白

村上 鬼城

加藤 楸邨

中村草田男

などの名句がすぐ頭に浮ぶものの、やはり次のような生死を越えて浄化された漱石の、諦念というよりむしろ透明無心の句境には及ばない。漱石俳句がこの後期俳句で頂点に達することは、誰の目にも明らかだろう。と同時にここにはまた、漱石の初期俳句の「小さき物へのまなざし」が生きているのである。

生き返るわれ嬉しきよ菊の秋  
逝く人に留まる人に来る雁

秋の江に打ち込む杭の響かな  
腸に春滴るや粥の味

有る程の菊抛げ入れよ棺の中

第30回「草枕」国際俳句大会実行委員会会長 岩岡 中正



# 「草枕」 国際俳句大会のあゆみ

| 開催回  | 開催年度  | 講演会講師                          | 講演会                            | 会場                  |
|------|-------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------|
| 第1回  | 平成8年  | 大岡 信                           | 「漱石の俳句」                        | 熊本県立劇場演劇ホール         |
| 第2回  | 平成9年  | 渡辺 淳一                          | 「私と小説」                         | 熊本市民会館              |
| 第3回  | 平成10年 | 平岩 弓枝                          | 「日本のこころ」                       | 熊本市産業文化会館           |
| 第4回  | 平成11年 | 五木 寛之                          | 「暗愁のゆくえ」                       | 熊本市民会館              |
| 第5回  | 平成12年 | 市川 森一                          | 「ドラマになる町」                      | 熊本市民会館              |
| 第6回  | 平成13年 | 森村 誠一                          | 「小説は人生の証明書」                    | 熊本市民会館              |
| 第7回  | 平成14年 | 夏目房之介                          | 「漱石と私」                         | 熊本市民会館              |
| 第8回  | 平成15年 | 童門 冬二                          | 「宮本武蔵と熊本」                      | 熊本市民会館              |
| 第9回  | 平成16年 | 安永 路子                          | 「定型詩の魅力」                       | 熊本市民会館              |
| 第10回 | 平成17年 | 黛 まどか                          | 聖地サンチアゴ・デ・コンポステラへの巡礼行          | 熊本市民会館              |
| 第11回 | 平成18年 | 坪内 稔典                          | 「俳人・漱石」                        | 熊本市産業文化会館           |
| 第12回 | 平成19年 | 加来 耕三                          | 「夏目漱石の作品と熊本」                   | 熊本市産業文化会館           |
| 第13回 | 平成20年 | 宇多喜代子                          | 「水と俳句」                         | 熊本市総合体育館・青年会館       |
| 第14回 | 平成21年 | 川口 恭子                          | 「殿様の俳句<br>—細川重賢公と由婦君—」         | 熊本市総合体育館・青年会館       |
| 第15回 | 平成22年 | 中村 青史                          | 「俳諧小説『草枕』を読む」                  | 熊本市総合体育館・青年会館       |
| 第16回 | 平成23年 | 大輪 靖宏                          | 「芭蕉の創作法」                       | ホテル熊本テルサ            |
| 第17回 | 平成24年 | 伊藤 一彦                          | 「短詩型の魅力 ～人生と表現～」               | 熊本市総合体育館・青年会館       |
| 第18回 | 平成25年 | 高野ムツオ                          | 「俳句の今とこれから」                    | 熊本市総合体育館・青年会館       |
| 第19回 | 平成26年 | 夏井いつき                          | 「『100年俳句計画』<br>～俳句甲子園を出発点として～」 | 熊本市総合体育館・青年会館       |
| 第20回 | 平成27年 | 小泉 凡                           | 「文化資源としての人と文学<br>～小泉八雲の世界から～」  | くまもと森都心プラザ          |
| 第21回 | 平成28年 | 原武 哲                           | 夏目漱石の「草枕」と俳句                   | 市民会館シアーズホーム<br>夢ホール |
| 第22回 | 平成29年 | 熊本信愛女学院、<br>済々黌、尚綱、第一<br>の各高校生 | ステージ発表                         | くまもと森都心プラザ          |
| 第23回 | 平成30年 | 西村 和子                          | 一日、一年、一時代                      | 市民会館シアーズホーム<br>夢ホール |
| 第24回 | 令和元年  | 高橋 睦郎                          | 鷗外の俳句                          | 市民会館シアーズホーム<br>夢ホール |
| 第25回 | 令和2年  |                                | コロナ禍で表彰式のみ                     | 県民交流館パレア            |
| 第26回 | 令和3年  | 岩岡会長と受賞者                       | トークイベント                        | 市民会館シアーズホーム<br>夢ホール |
| 第27回 | 令和4年  | 岩岡会長と受賞者、<br>山下しげ人・<br>ジュニア選者  | トークイベント                        | 市民会館シアーズホーム<br>夢ホール |
| 第28回 | 令和5年  | 高野ムツオ                          | 俳句が映し出すもの                      | 市民会館シアーズホーム<br>夢ホール |
| 第29回 | 令和6年  | 西村 和子                          | 季語で読む源氏物語                      | 市民会館シアーズホーム<br>夢ホール |
| 第30回 | 令和7年  | 井尻香代子、井上泰至<br>岩岡中正、西川盛雄        | シンポジウム<br>「世界で愛される俳句」          | 市民会館シアーズホーム<br>夢ホール |

# 「草枕」俳句大会グランプリ

## 小南さんと吉住さん受賞

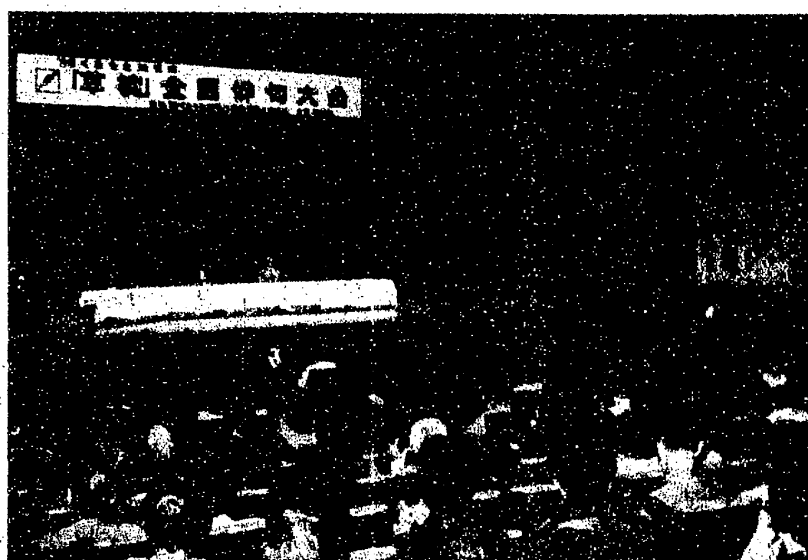
熊本市

夏目漱石の来熊百年を記念した「草枕」全国俳句大会が十三日、熊本市大江の県立劇場で開かれ、グラン

プリの事前投句一般部門の漱石大賞に小南やちよさん(六七)山鹿市〓の「来し方くほどのもの」が輝いた。吟行投句の同大賞は西本正子さん(八八)八代市。

同大会は俳人の顔も持つ漱石を見直そうと「'96くまもと漱石博」推進100人委員会が主催。全国から事前投句一万四千四百十句、大会前日の吟行投句二百九十七句、当日投句千二百九十四句が寄せられた。

約千人の俳句愛好家が参加、藤崎久を大会会長(俳誌「阿蘇」主宰)が開会を宣言し、名誉会長の三角熊本市長があいさつ。歌人の安永踏子さん、佐藤和夫早稲田大教授、矢部絹子熊本朗読研究会代表、岩岡中正熊本大教授が「俳句の魅力」



「草枕」全国俳句大会の会場  
＝熊本市大江2丁目の県立劇場

第1回大会を伝える熊本日日新聞＝平成8年(1996)年10月14日

のテーマで語り合った。午後には、詩人で文芸評論家の大岡信氏が「漱石と俳句」と題して記念講演。正岡子規との友情を軸に漱石の俳句について語り、「写

実ではなく、アイデアをどう表現するか。レトリックにはむとんちやくだが、宝石の原石の趣がある」と述べた。

この後、各部門の入賞者を発表、選者の伊藤柏翠、稲畑汀子、上田五千石、窪田文耳、倉田紘文、鷹羽狩行、長谷川権の各氏らが講評を行い、藤崎大会会長が入賞者に賞状を贈った。



# あとがき

## 時間旅行

2025年(令和7)年に第30回を迎えた「草枕」国際俳句大会の記念誌の編集をしながらこんな言葉を思った。そしてこの時間旅行は、俳句を中心に据えた例を見ないものだった。

第1回大会は1996(平成8)年。夏目漱石が第五高等学校(現・熊本大学)の英語教師として熊本に来た1896(明治29)年から100年になるのを記念して始まった。報告集のタイトルも「'96くまもと漱石博 漱石の玉手箱」である。前年の1995(平成7)年に結成された、県内各界のリーダーを中心とする「'96くまもと漱石博推進100人委員会」がエンジン役となつて、「漱石展」や「三四郎祭」、「国際シンポジウム」など多彩な催しが企画され、「草枕」全国俳句大会」もその一つだったのだが、以来30年、毎年続けられてきたのが本大会であった。

漱石は生涯2500余句のうち、1000余句を4年3カ月暮らした熊本で作っている。本大会はその夏目漱石顕彰とともに、熊本市の名誉市民である俳人・中村汀女を偲び、俳句都市・熊本を国際的に発信しようという目的もあるのだが、大会名称が「草枕」国際俳句大会と「国際」を入れて改称されたのは2002(平成14)年の第7回大会だった。外国からの投句が多いのも大会の特徴で、2009(平成21)年の熊本市制百二十周年記念と銘打った第14回大会には「笑いには国境はなし焚火の輪」(須賀吐句志)、「樹海より立ちて大河を渡る虹」(東比呂)、「ブラジルに果つるも定め銀河濃し」(二見智佐子)の句がある。ブラジルには熊本からの移民が多かった。異郷の地で必死に生きていく人たちの心が見えるようだ。「ブラジル移民の父」とも呼ばれた熊本市城南町出身の上塚周平は瓢箪の俳号を持つ俳人でもあった。

30回の記念大会では外国語部門の大賞受賞者を熊本に招く「福田令寿賞」を新設した。福田令寿は宇城市出身で、1893(明治26)年、20歳で単身渡英、エジンバラ大学などで医学を学び、帰熊後は熊本県の医療の発展や社会事業にも取り組み、熊本市の名誉市民となった。福田令寿賞は、福田令寿の孫に当たる福田病院(熊本市)の福田桐理理事長が寄金を提供した。

30回大会の海外からの応募は67ヶ国・地域、637人、1199句に及び、英語だけでなく、スペイン語、中国語もあり、全国有数の国際大会となっている。

振り返れば、大会はそれぞれに時代を反映したものになっているが、大きな影響を受けたのが2016年(平成28)年の熊本地震とその後のコロナ禍であった。コロナ禍で

は2020(令和2)年の第25回大会は表彰式のみとなり、以後もコロナ禍の影響での大会開催を余儀なくされたが、2021(令和3)年の第26回大会にはジュニア部門を復活するとともに、インターネット部門を新設した。翌2022(令和4)年の第27回大会には俳画部門に代わり写真俳句部門を新設した。またこの大会の外国語部門大賞はロシアの侵攻を受けるウクライナからの投句であった。

大会の運営は発足時から永年熊本市が当たっていたが、2018(平成30)年の第23回大会から実行委員会方式となり、委員会とその事務局が運営を担っている。持続可能な大会に向けた体制をどう構築するかなどが今後の課題だろう。

本誌の編集にあたっては、大会名をはじめ各項目が変更していることもあり、当時の表記のままとした。

またページ数の関係で30回大会各部門の選評をカットし、ホームページに掲載することとした。御覧いただきたい。

本誌のタイトルの「秋はふみ…」は漱石が五高図書館で詠んだ「秋はふみ吾に天下の志」からとった。「天下の志」に明治人の気概がある。

「草枕」の玉手箱 30周年記念誌製作実行委員会会長  
高峰 武

「草枕」の玉手箱 30周年記念誌製作では以下の助成をいただいた。心から感謝したい。(五十音順)

- 一般財団法人 熊本公德会
- 一般財団法人 熊本放送文化振興財団
- 熊本銀行ふるさと振興基金(助成金事業)
- 2026年度公益信託熊日文化スポーツ基金助成事業



## 秋はふみ…漱石と歩む

「草枕」国際俳句大会 30回記念誌

令和8年（2026年）2月発行

編集・発行／「『草枕』の玉手箱」30周年記念誌製作実行委員会

〒862-0942 熊本市東区江津2-28-77 高峰武方

Tel・Fax：096-364-4510

Email：kusamakura-haiku@outlook.jp

草枕ホームページ：http://kusamakura-haiku.jp/



第1回大会の会場風景 (1996年10月13日、熊本県立劇場)